



第27回 市政世論調査

市民のこえ

調査結果のまとめ



©稲沢市 いなッピー

2024 稲沢市

はじめに

2年に1回実施しております「市政世論調査」は、昭和48年に第1回目の調査を開始して以来、今回で27回目となりました。

この調査は、市のさまざまな施策について市民の皆さんからご意見をお聞きし、その結果を今後の市政運営に反映させ、魅力と活力のあるまちづくりを進めるため実施しております。

近年は、全国各地において、異常気象により自然災害が局地化・激甚化し、瞬く間に大災害に繋がる状況が発生しております。そういった状況に危機感をもって対応していく必要があります。本市におきましては、市民の生命、身体および財産を守るための「防災対策の推進」や、激甚化、頻発化する豪雨による浸水被害の軽減を図るための「治水対策の推進」に取り組み、災害に強いまちづくりを推進してまいります。

また、「子育て・教育は稲沢で！」をスローガンに、子育て・教育の充実を地域社会全体で取り組む最重要課題として位置付け、妊娠、出産、子育て、教育を切れ目なく支援することによって、すべての子どもが健やかに成長できるまちの実現に向けた取り組みを進めてまいります。

いつ何が起こるか分からない不安な時代であるからこそ、市民の皆さんに寄り添い、幸福（しあわせ）を感じていただけるよう、「人にやさしく活力あるまちづくり」の実現に向け、市民生活や地域経済への必要な支援を継続しながら着実な歩みを続けてまいりたいと考えております。

今後とも稲沢市の発展のため、市政に一層のご理解とご協力をいただきますようお願いいたします。

最後に、ご多用の中、本調査にあたりご協力いただきました多くの市民の皆さまに厚くお礼を申し上げます。

令和6年12月

稲 沢 市

目次

はじめに	1
目次	2
I. 調査概要	3
1 調査の目的	3
2 調査の概要	3
3 回収結果	3
4 調査結果の見方	3
5 過去の調査概要	4
II. 調査結果	6
1 回答者の属性について	6
2 稲沢市について	10
3 市政情報の取得手段について	29
4 市業務のデジタル化の推進について	32
5 ご当地グルメ（カレー）の認知度について	34
6 新たな工業ゾーンについて	34
7 稲沢市議会の広報について	35
8 図書館の利用状況について	38
9 電子図書館の利用状況について	42
10 安全でおいしい水のPR効果について	48
11 住宅用火災警報器について	50
12 いきいきいなざわ・健康21計画(第2次)計画における現状	53
III. 第26回市政世論調査 調査結果活用事例	60

I. 調査概要

1 調査の目的

市民生活の実態や市民志向の調査を行うとともに、市の様々な施策に対する市民の意見を集約・分析することにより、今後の行政施策立案の基礎資料とします。

2 調査の概要

- (1) 調査地域 : 稲沢市全域
- (2) 調査対象者 : 満 18 歳以上の市民の方 2,500 人（無作為抽出）
- (3) 調査期間 : 令和 6 年 7 月 24 日から 8 月 13 日まで
- (4) 調査方法 : 郵送法（インターネット回答併用）

3 回収結果

調査人数	回答人数	回収率
2,500 人	1,376 人 (うち、インターネット回答 363 人)	55.0%

4 調査結果の見方

- 図表中の「n 数 (number of case)」は集計対象者総数（あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人）を示しています。
- グラフ中の「%」は、小数第 2 位を四捨五入しているため、単数回答の設問（1 つだけに○をつけるもの）であっても合計が 100%にならない場合があります。また、複数回答の設問の場合（あてはまるもの全てに○をつけるものなど）は「n」に対する各選択肢の回答者数の割合を示していますので、合計が 100%を超える場合があります。
- 図表中において、「無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が著しく困難なものです。
- 設問に対する回答数が「あてはまるもの全てに○」の場合、各 n 数と調査結果の割合から割戻した数の合計が一致しない場合があります。
- グラフ中の選択肢は、原則として調査票に記載された表現のまま記載しています。
- 調査結果を図表で表示していますが、グラフ以外の集計表（クロス集計）は、最も高い割合のものを網かけしています。（「無回答」を除く）

※クロス集計とは…複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ表を作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法

5 過去の調査概要

区分	調査年月日	調査人数	回答人数	回収率	調査方法
第1回	昭和48年7月	1,000人	805人	80.5%	個別面接法
第2回	昭和49年9月	2,000人	1,418人	70.9%	郵送法
第3回	昭和50年9月	2,000人	1,461人	73.1%	郵送法
第4回	昭和52年6月	2,000人	1,402人	70.1%	郵送法
第5回	昭和54年7月	2,000人	1,579人	79.0%	郵送法
第6回	昭和56年7月	2,500人	1,929人	77.2%	郵送法
第7回	昭和58年7月	2,500人	1,893人	75.7%	郵送法
第8回	昭和60年7月	2,500人	1,936人	77.4%	郵送法
第9回	昭和62年6月	2,500人	1,878人	75.1%	郵送法
第10回	平成元年6月	2,500人	1,768人	70.7%	郵送法
第11回	平成4年6月	2,500人	1,775人	71.0%	郵送法
第12回	平成6年7月	2,500人	1,801人	72.0%	郵送法
第13回	平成8年7月	2,500人	1,685人	67.4%	郵送法
第14回	平成10年7月	2,500人	1,767人	70.7%	郵送法
第15回	平成12年7月	2,500人	1,699人	68.0%	郵送法
第16回	平成14年7月	2,500人	1,660人	66.4%	郵送法
第17回	平成16年7月	2,500人	1,598人	63.9%	郵送法
第18回	平成18年7月	2,500人	1,625人	65.0%	郵送法
第19回	平成20年8月	2,500人	1,598人	63.9%	郵送法
第20回	平成22年8月	2,500人	1,637人	65.5%	郵送法
第21回	平成24年8月	2,500人	1,624人	65.0%	郵送法
第22回	平成26年11月	2,500人	1,699人	68.0%	郵送法
第23回	平成28年8月	2,500人	1,390人	55.6%	郵送法
第24回	平成30年8月	2,500人	1,352人	54.1%	郵送法
第25回	令和2年8月	2,500人	1,425人	57.0%	郵送法
第26回	令和4年8月	2,500人	1,518人 (322人)	60.7%	郵送法/ インターネット 回答

※（ ）内はインターネット回答人数

■ 稲沢市の位置図



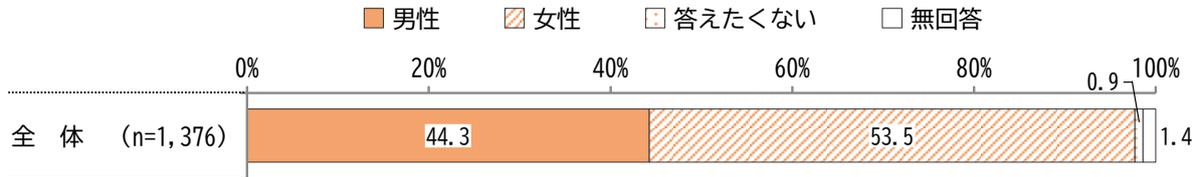
■ 支所・市民センター地区図



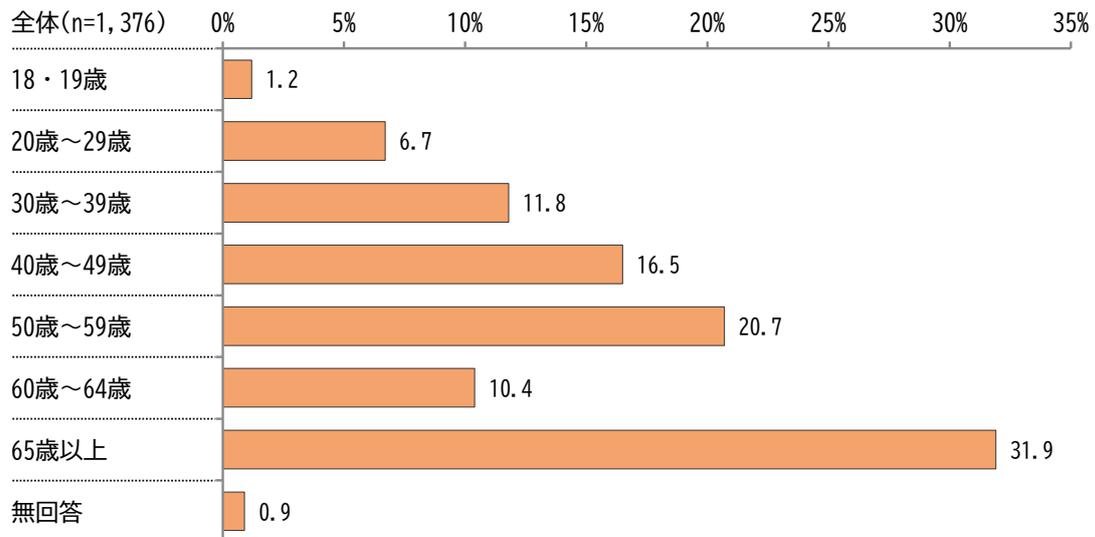
II. 調査結果

1 回答者の属性について

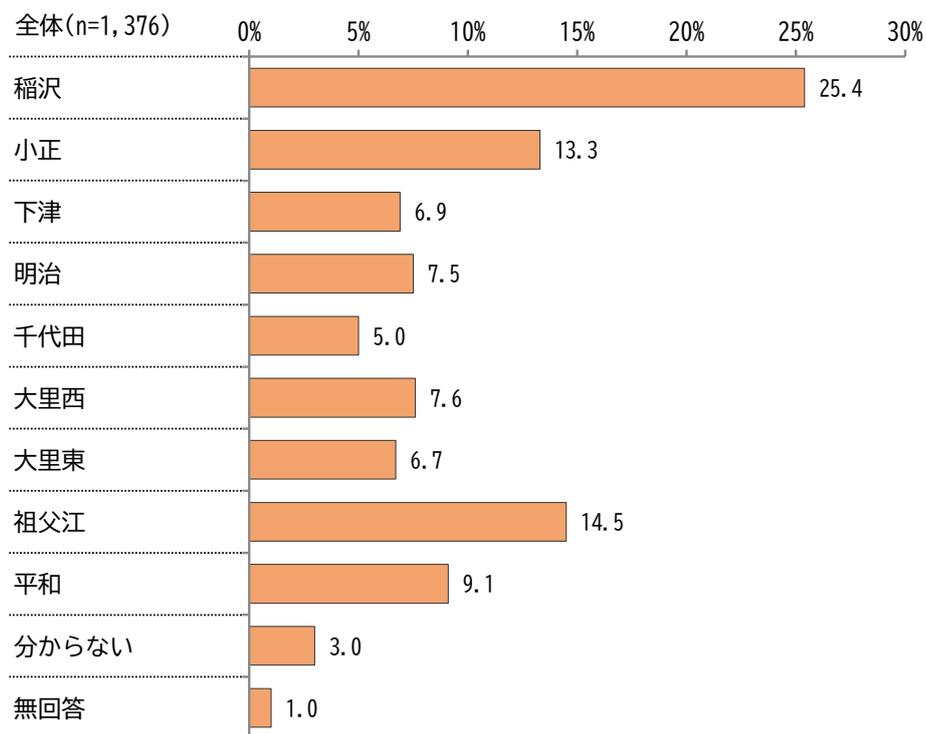
問1 性別をお答えください。(○は1つだけ)



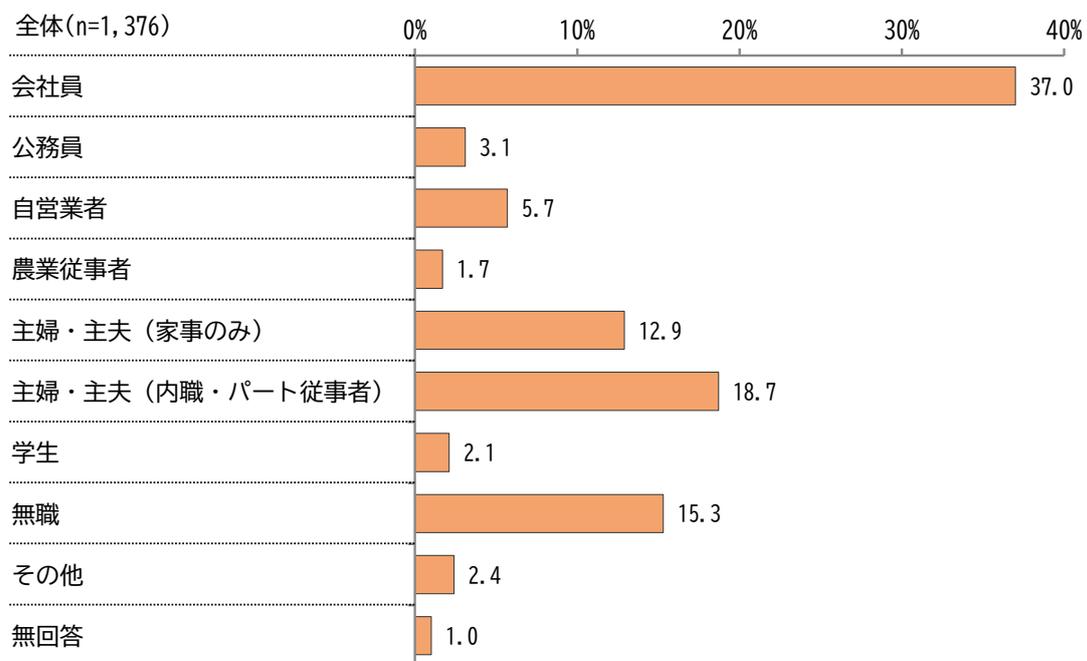
問2 満年齢をお答えください。(○は1つだけ)



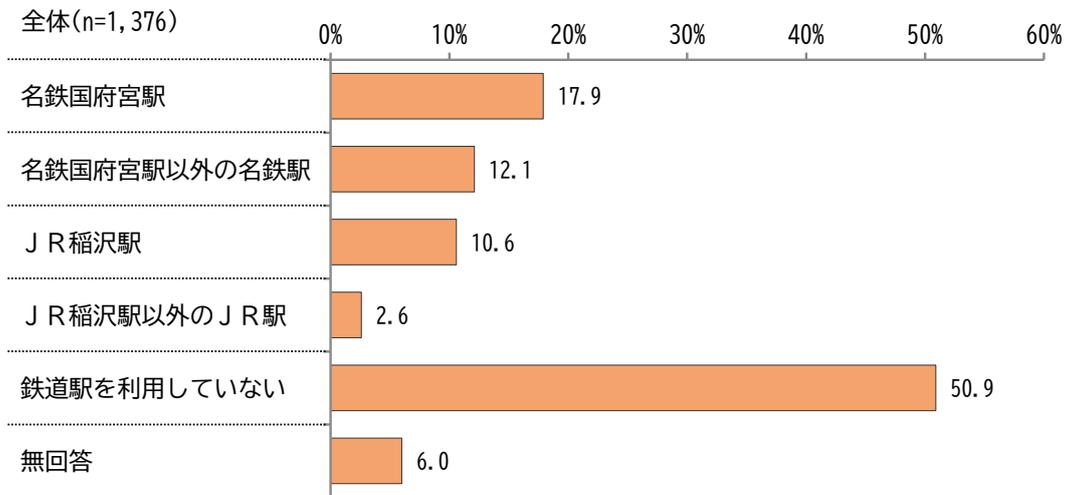
問3 お住まいの支所・市民センター地区はどちらですか。(〇は1つだけ)



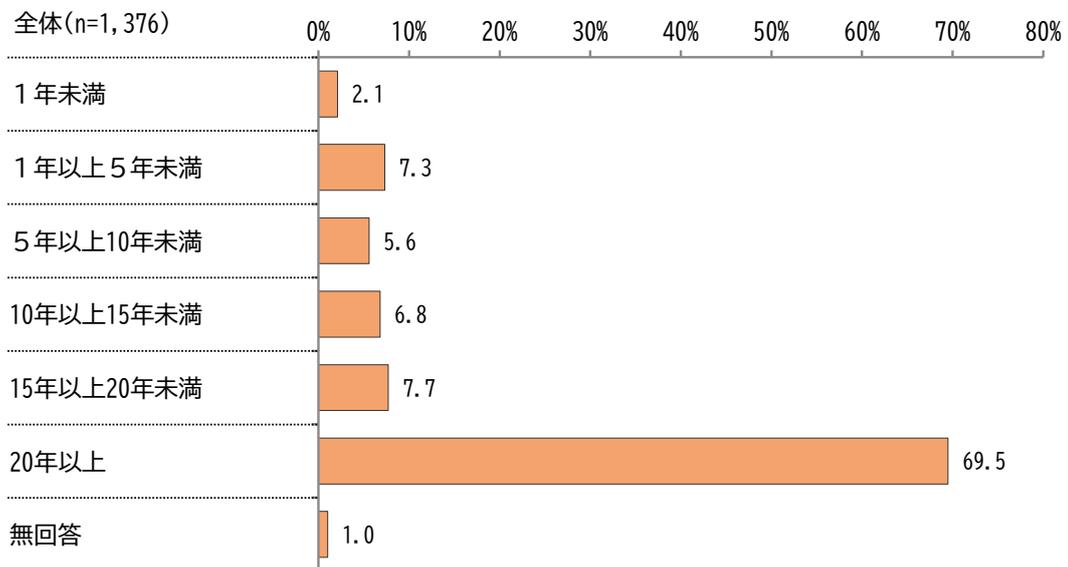
問4 ご職業をお答えください。(〇は1つだけ)



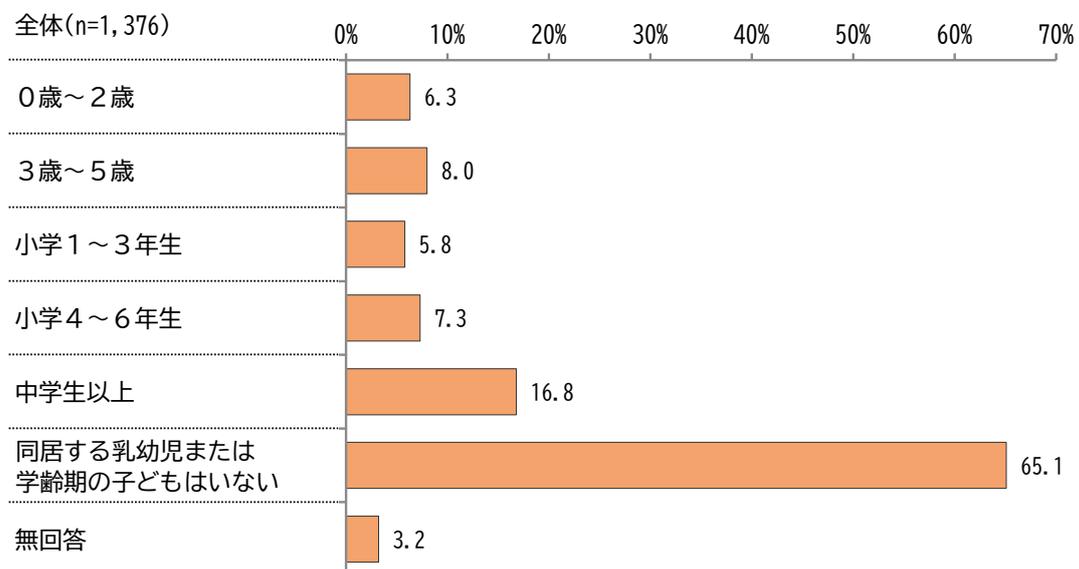
問5 日ごろ通勤・通学などで利用している鉄道駅を選んでください。(○は1つだけ)



問6 稲沢市の居住年数をお答えください。(○は1つだけ)

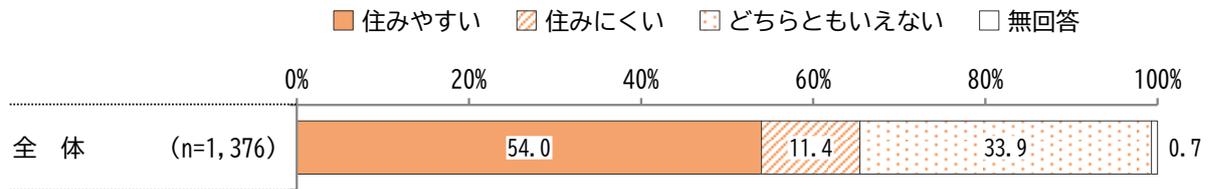


問7 同居する乳幼児または学齡期（高校・大学生を含む）の子どもはいますか。
（あてはまるもの全てに○）

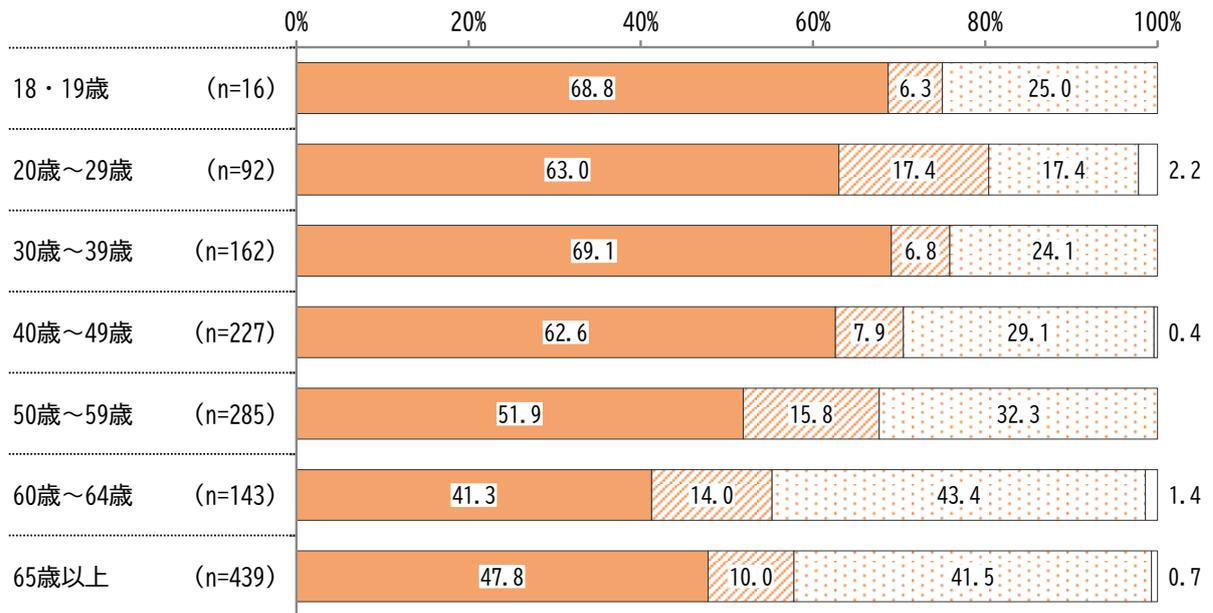


2 稲沢市について

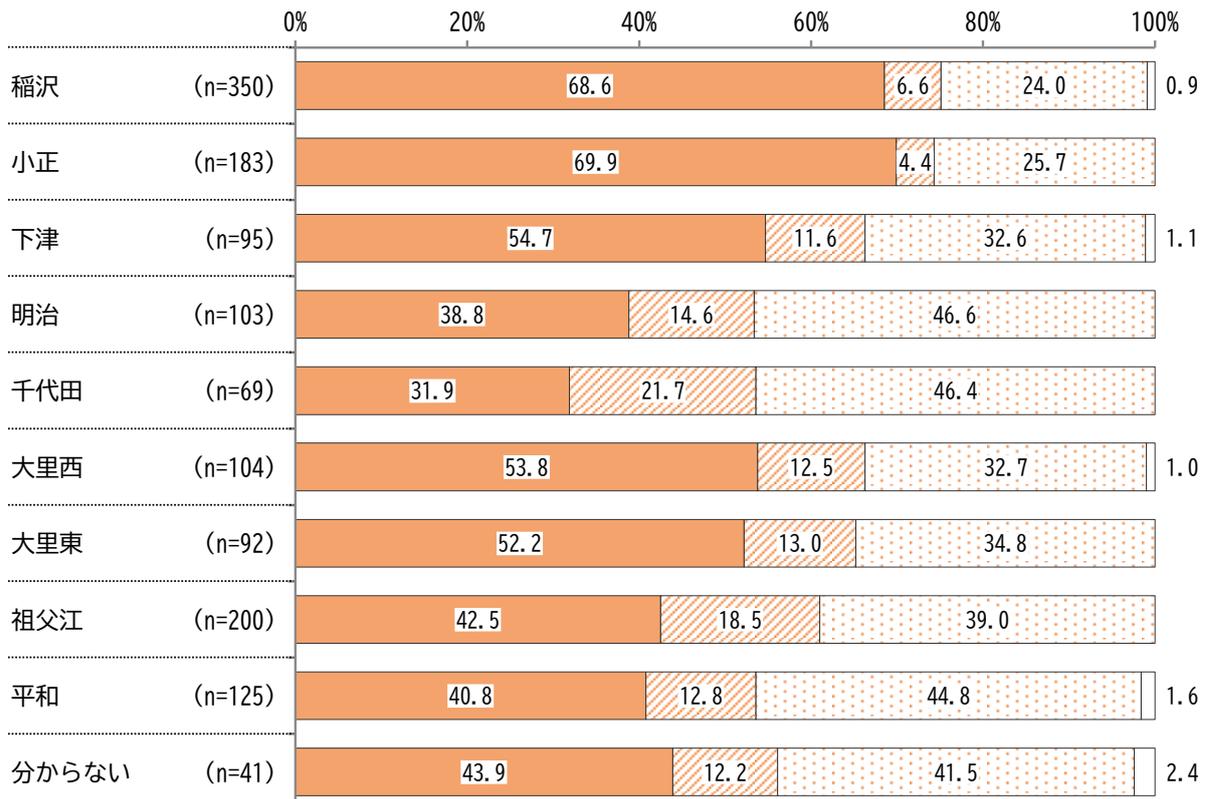
問1 稲沢市を住みやすいところだと感じますか。(○は1つだけ)



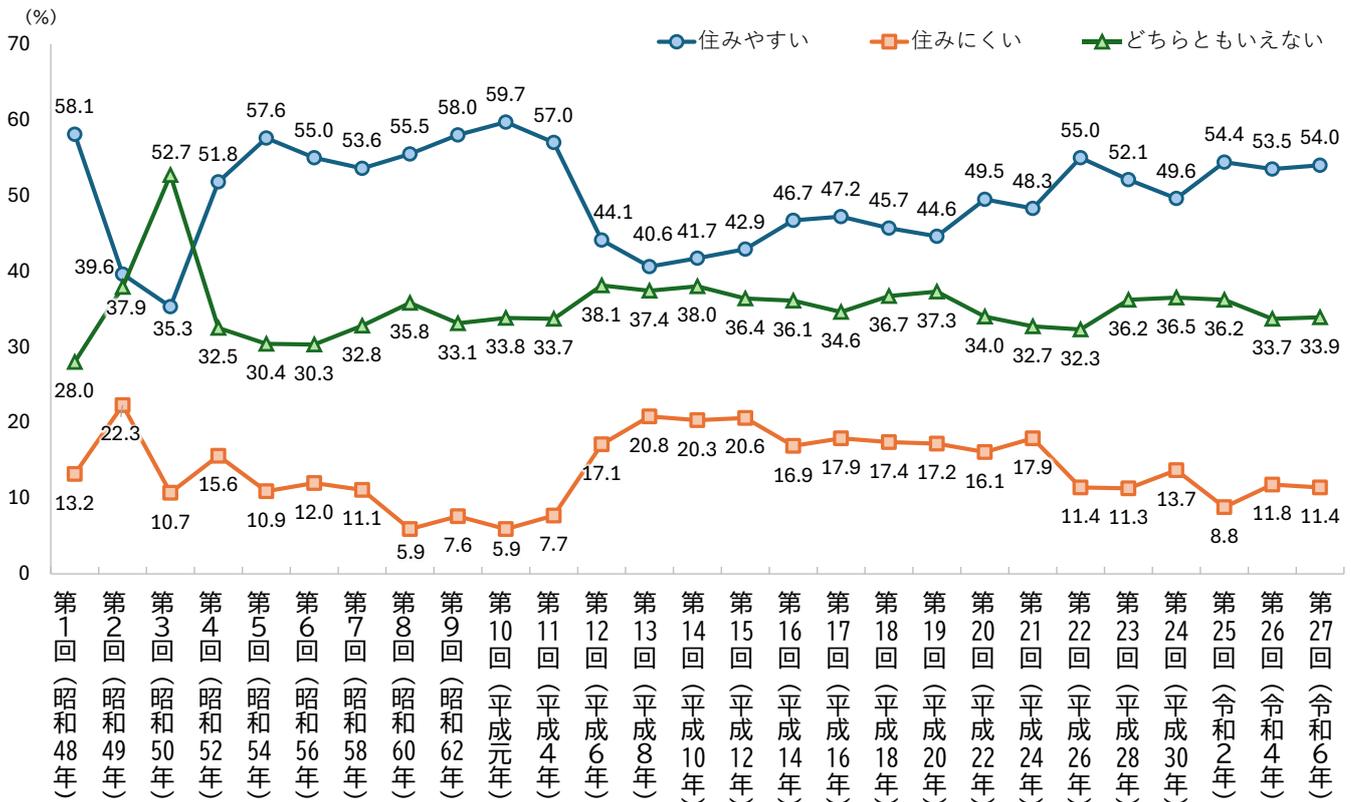
【年齢別】



【居住地区別】



【過去調査との比較】



● 「住みやすい」と感じている方が5割半ば

「住みやすい」が54.0%、の一方、「住みにくい」は11.4%となっています。

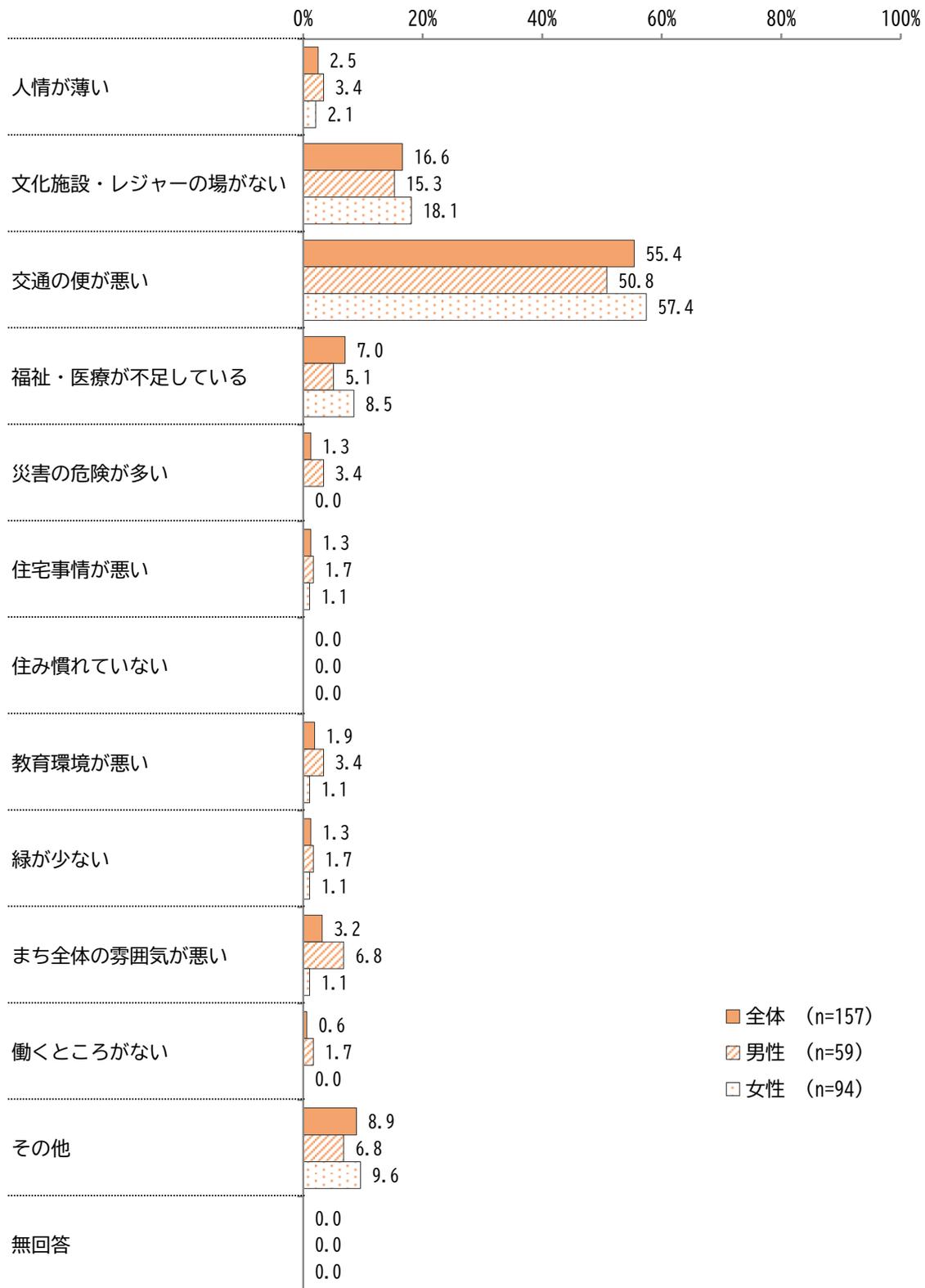
年齢別でみると、「住みやすい」は18・19歳で68.8%、20歳～29歳で63.0%、30歳～39歳で69.1%、40歳～49歳で62.6%と高くなっており、一方「住みにくい」は20歳～29歳で17.4%と他と比べ高くなっています。

居住地区別でみると、「住みやすい」は稲沢地区で68.6%、小正地区で69.9%と高くなっているのに対し、「住みにくい」は千代田地区、祖父江地区で約2割と他と比べ高くなっています。

問1で「2. 住みにくい」と答えた方にお尋ねします。

問1-1 住みにくい理由は何ですか。(○は1つだけ)

【性別】



【居住地区別】

単位：%

区分	回答者数（件）	人情が薄い	文化施設・レジャーの場がない	交通の便が悪い	福祉・医療が不足している	災害の危険が多い	住宅事情が悪い	住み慣れていない	教育環境が悪い	緑が少ない	まち全体の雰囲気が悪い	働くところがない	その他	無回答
稲沢	23	-	17.4	60.9	8.7	4.3	4.3	-	-	4.3	-	-	-	-
小正	8	-	37.5	12.5	25.0	-	-	-	-	-	-	-	25.0	-
下津	11	9.1	18.2	45.5	-	-	-	-	9.1	-	9.1	-	9.1	-
明治	15	6.7	6.7	73.3	6.7	-	-	-	-	-	-	-	6.7	-
千代田	15	-	20.0	80.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大里西	13	-	23.1	30.8	23.1	-	-	-	-	7.7	7.7	-	7.7	-
大里東	12	8.3	25.0	25.0	8.3	8.3	-	-	-	-	-	-	25.0	-
祖父江	37	-	8.1	67.6	2.7	-	2.7	-	2.7	-	8.1	2.7	5.4	-
平和	16	-	18.8	56.3	6.3	-	-	-	6.3	-	-	-	12.5	-
分からない	5	20.0	20.0	20.0	-	-	-	-	-	-	-	-	40.0	-

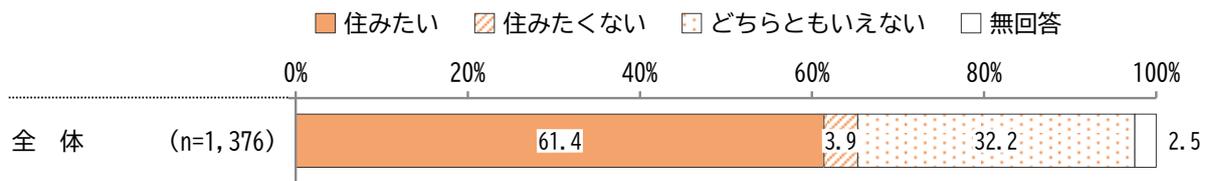
●住みにくい理由は「交通の便が悪い」が5割半ば

住みにくい理由は、「交通の便が悪い」が 55.4%で最も高く、次いで「文化施設・レジャーの場がない」が 16.6%、「福祉・医療が不足している」が 7.0%となっています。

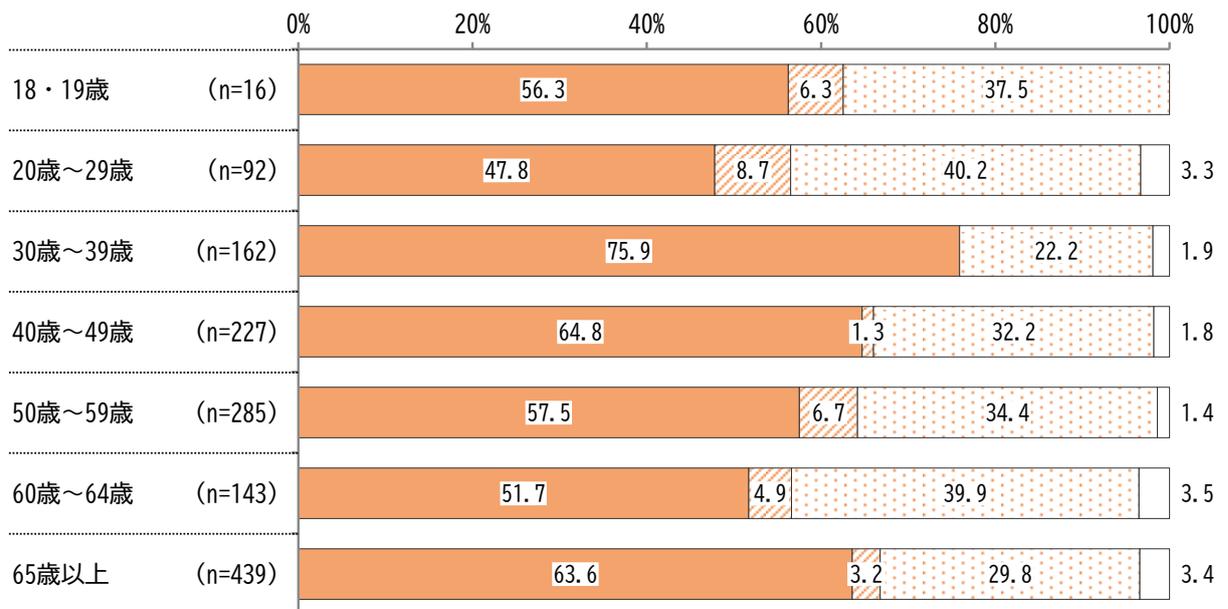
性別でみると、男女ともに「交通の便が悪い」が 50%以上で最も高くなっています。

居住地区別でみると、小正以外の地区で「交通の便が悪い」が最も高くなっています。

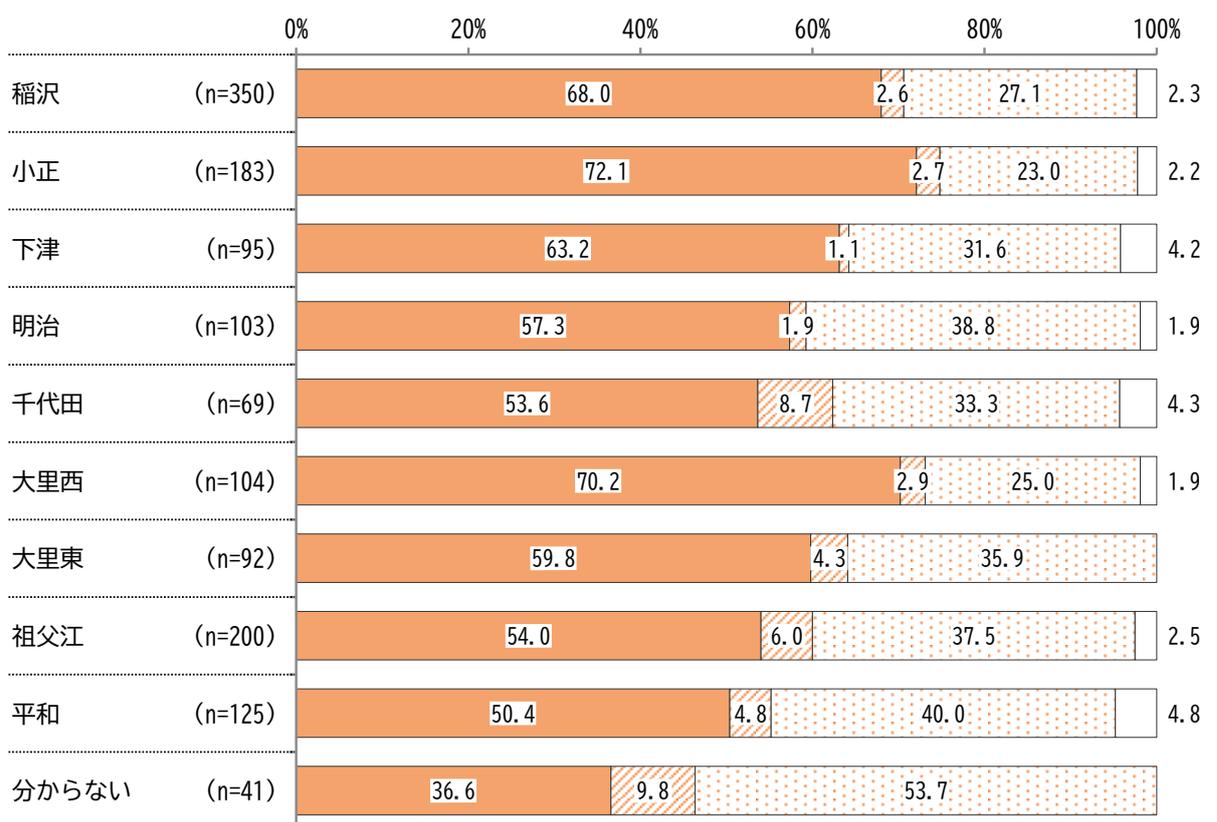
問2 これからも稲沢市に住みたいと思いますか。(〇は1つだけ)



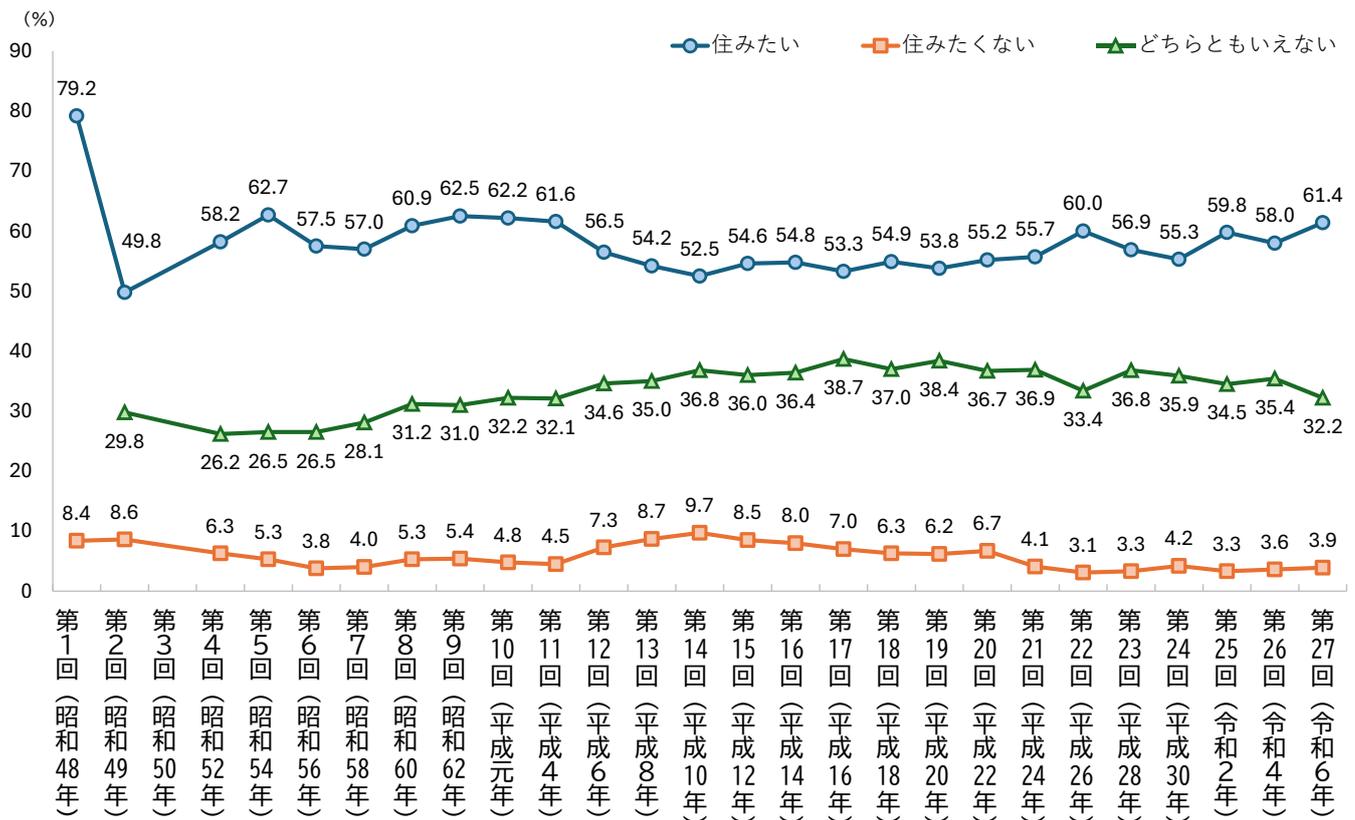
【年齢別】



【居住地区別】



【過去調査との比較】



※第3回（昭和50年）については、本設問の調査は実施しておりません

●約6割の方が「これからも稲沢市に住みたい」

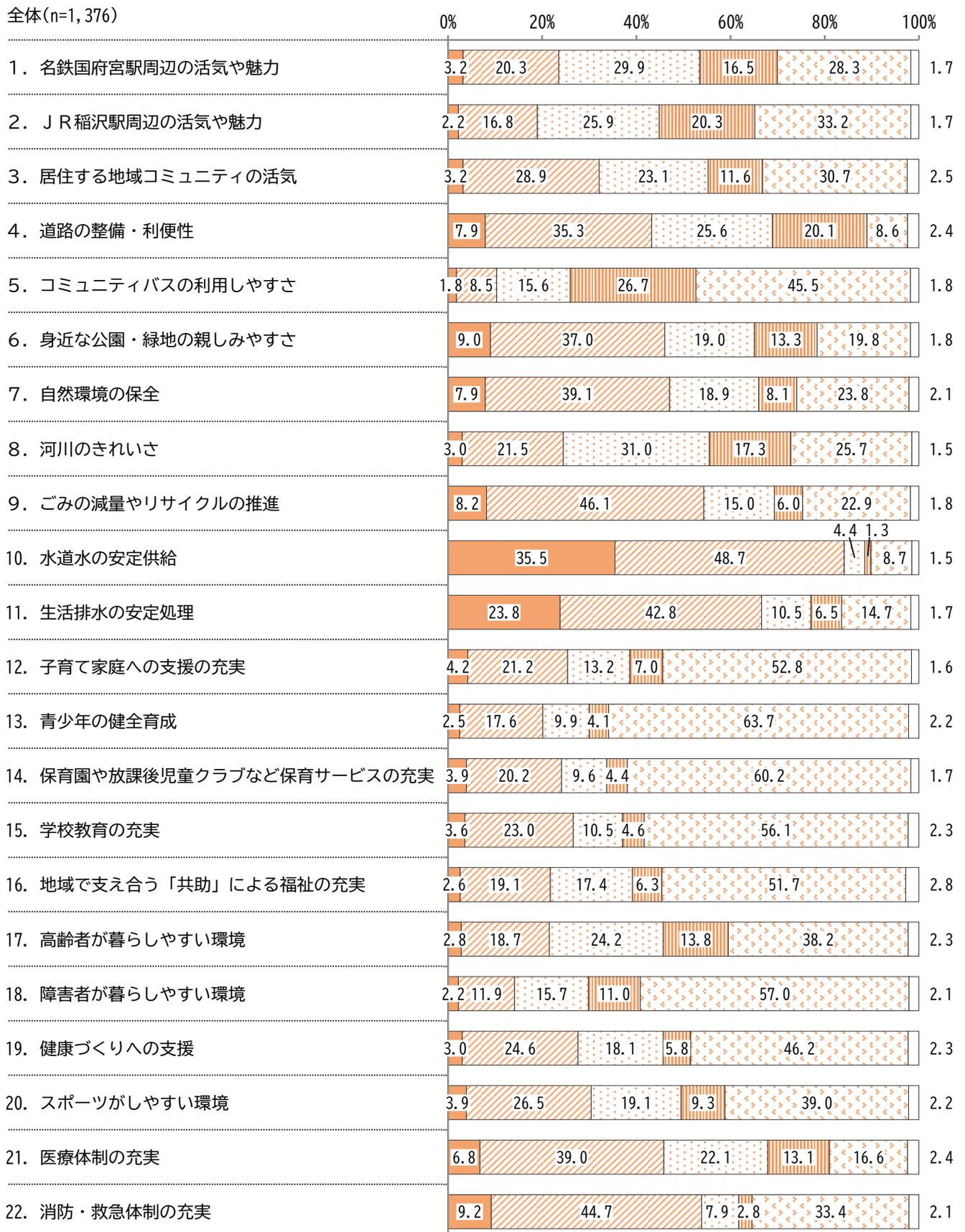
「住みたい」が61.4%の一方、「住みたくない」は3.9%となっています。

年齢別で見ると、「住みたい」は30歳～39歳で75.9%、40歳～49歳で64.8%、65歳以上で63.6%と高くなっています。

居住地区別で見ると、「住みたい」は小正・大里西地区で70%以上と高くなっています。

問3 稲沢市の現状についてどの程度満足していますか。
(それぞれについて○は1つだけ)

■ 満足 ▨ どちらかといえば満足 □ どちらかといえば不満 ▩ 不満 ◻ わからない □ 無回答



満足
 どちらかといえば満足
 どちらかといえば不満
 不満
 わからない
 無回答

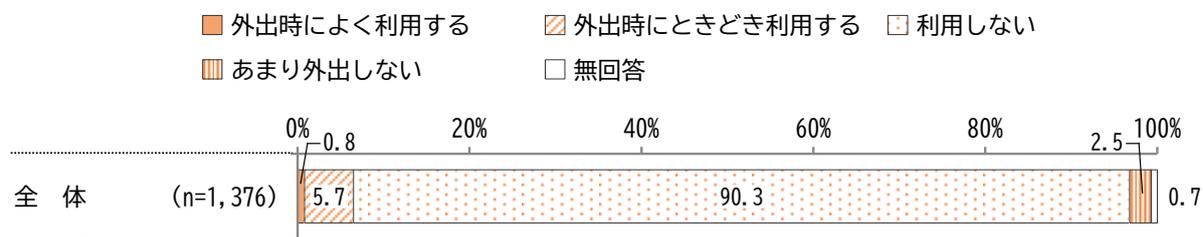


● 「水道水の安定供給」に対し8割半ばの方が“満足”

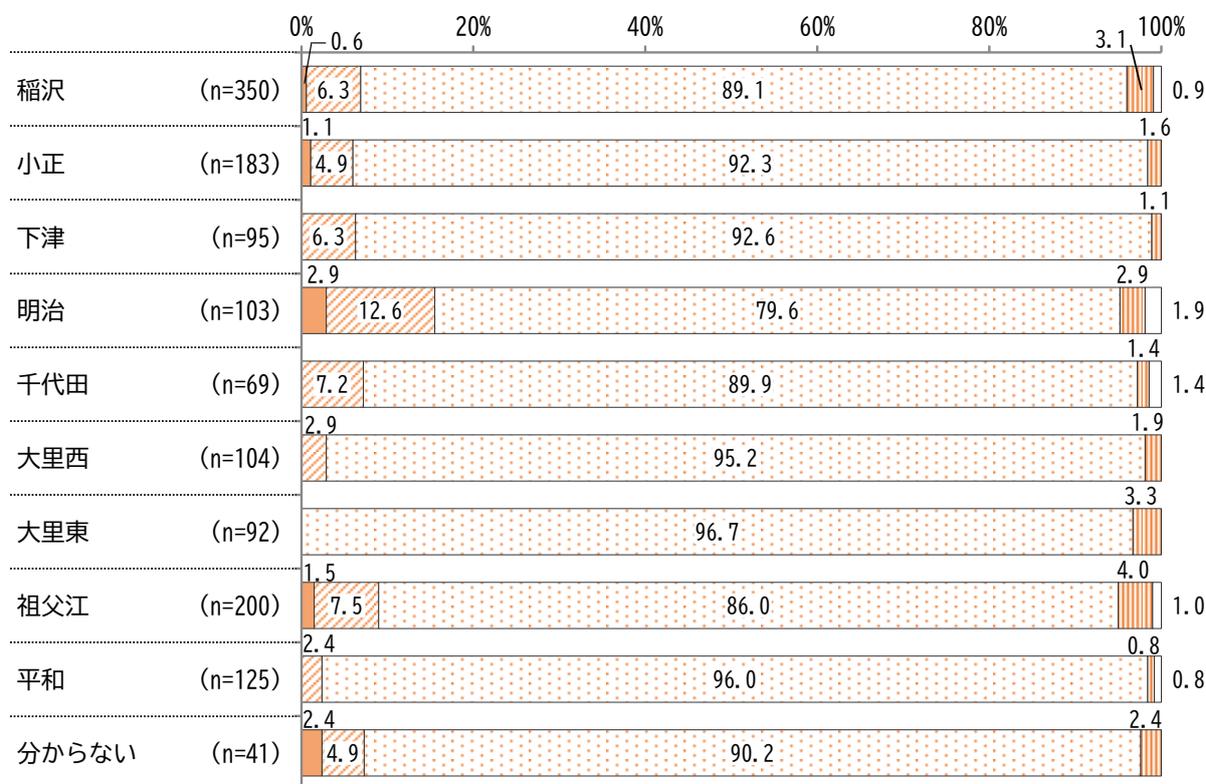
「満足」「どちらかといえば満足」を合わせた割合は「10. 水道水の安定供給」が84.2%、「11. 生活排水の安定処理」が66.6%、「24. 治安の良さ」が64.1%と高くなっています。

一方、「どちらかといえば不満」「不満」と回答した方が多かった項目は、「1. 名鉄国府宮駅周辺の活気や魅力(46.4%)」「2. JR稲沢駅周辺の活気や魅力(46.2%)」「4. 道路の整備・利便性(45.7%)」「5. コミュニティバスの利用しやすさ(42.3%)」「8. 河川のきれいさ(48.3%)」などです。

問4-1 あなたは日常の交通手段としてコミュニティバスを利用していますか。
(○は1つだけ)



【居住地区別】

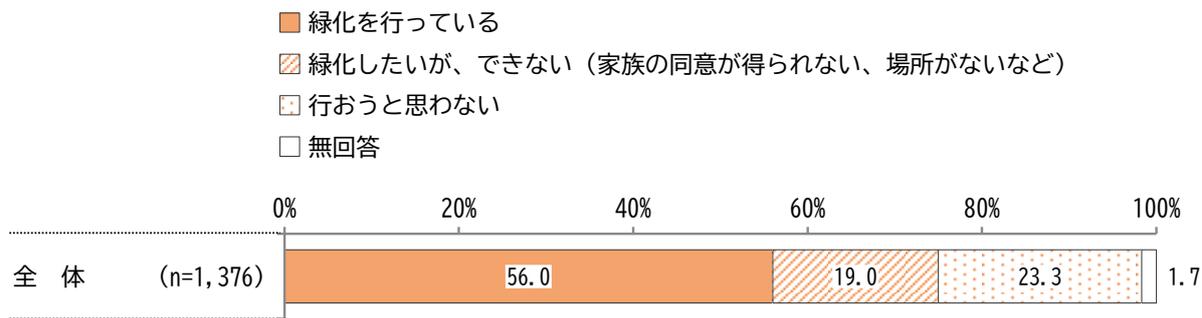


●日常の交通手段としてコミュニティバスを利用しない方が約9割

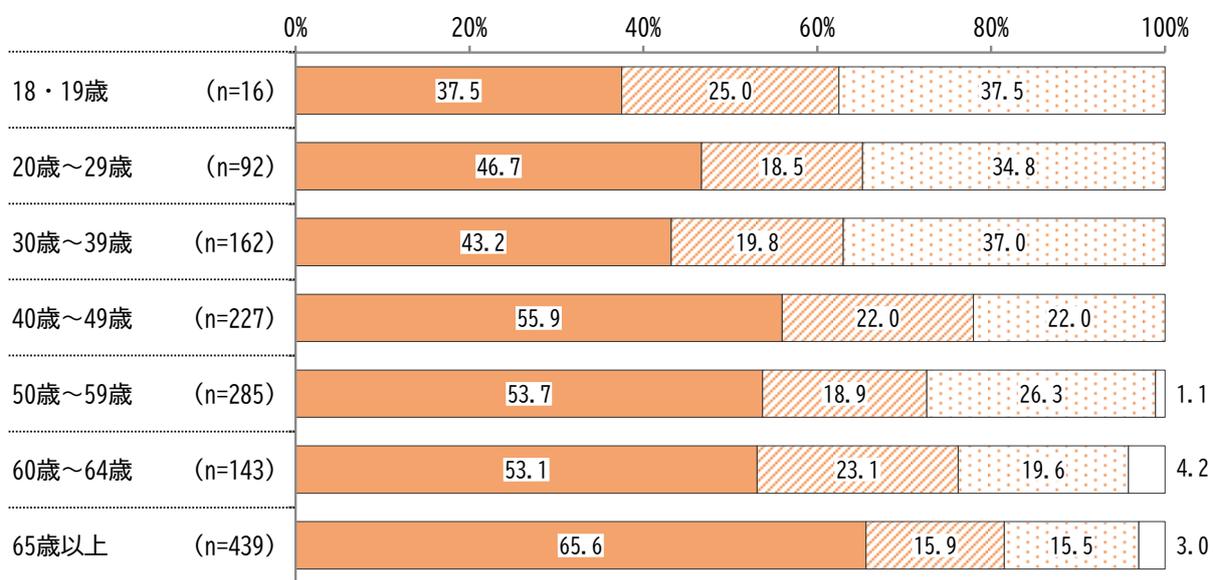
「利用しない」が90.3%、「外出時にときどき利用する」が5.7%となっています。

居住地区別でみると、「外出時によく利用する」「外出時にときどき利用する」を合わせた割合は明治地区で15.5%と他と比べ高くなっています。

問4-2 あなたの家庭では自宅などの緑化を行っていますか。(〇は1つだけ)



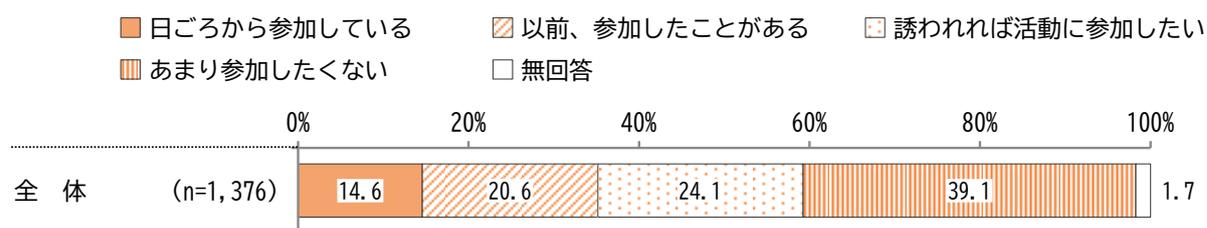
【年齢別】



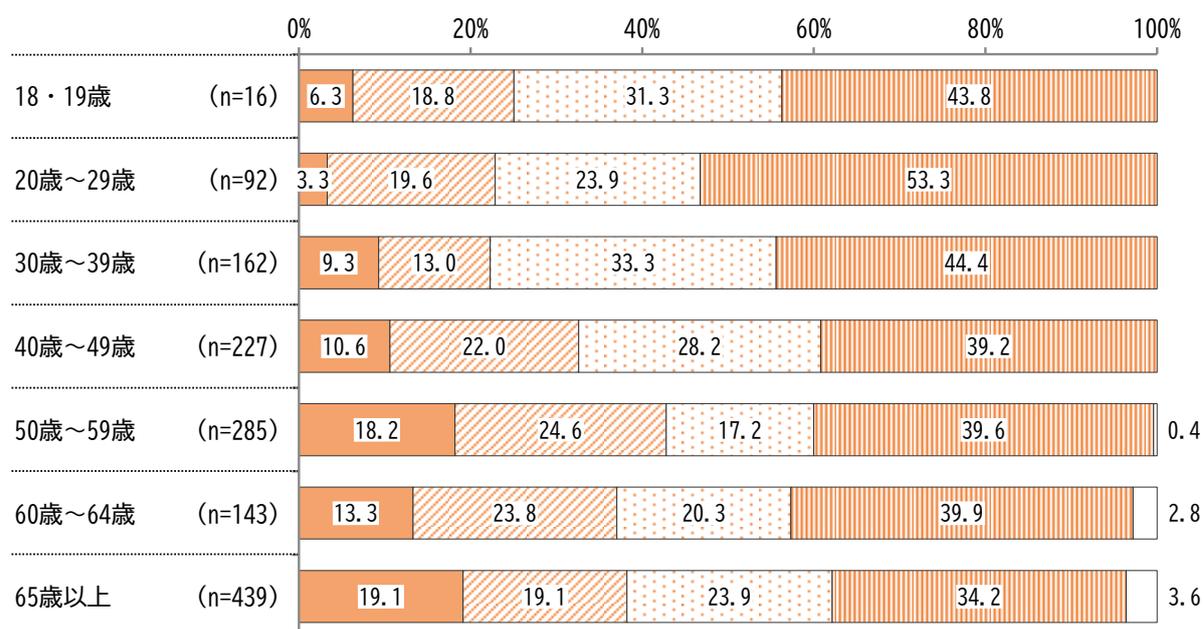
●自宅などの緑化を行っている方は5割半ば

「緑化を行っている」が56.0%の一方、「行おうと思わない」が23.3%となっています。
 年齢別でみると、「緑化を行っている」は65歳以上の方が65.6%と高くなっています。

問4-3 あなたは環境美化活動に参加していますか。(〇は1つだけ)



【年齢別】

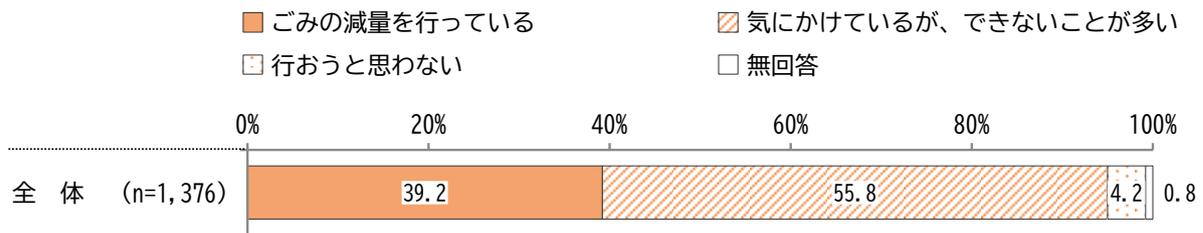


●環境美化活動への参加に関心がある方が約6割

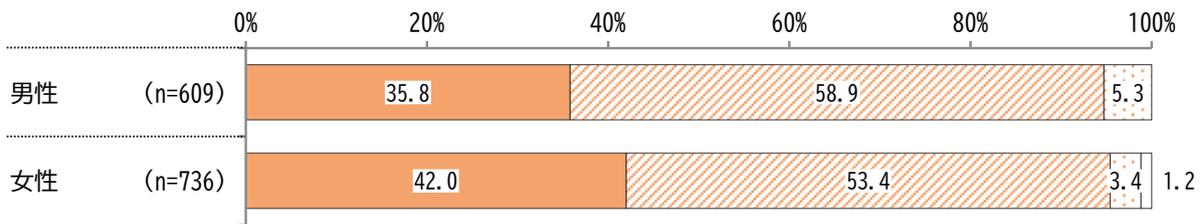
「日ごろから参加している」「以前、参加したことがある」を合わせて 35.2%、「誘われれば活動に参加したい」が24.1%と、環境美化活動への参加に“関心がある”方の割合が約6割となっています。

年齢別でみると、他と比べ 20 歳～29 歳で「あまり参加したくない」の割合が高くなっています。

問4-4 あなたはごみの減量を行っていますか。(○は1つだけ)



【性別】

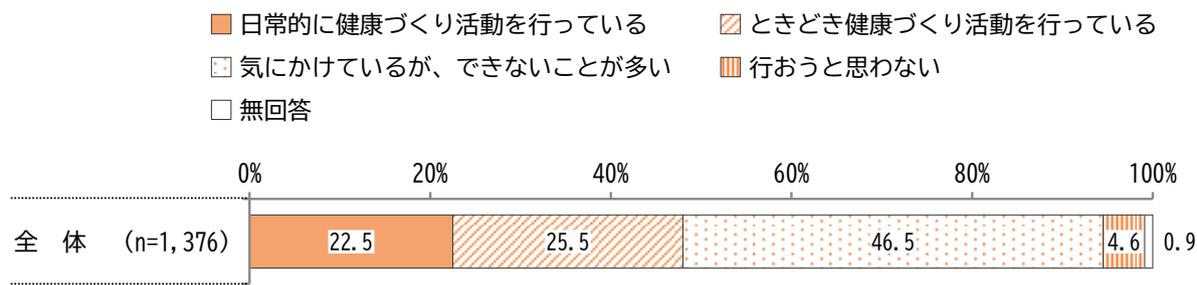


●ごみの減量について「気にかけているが、できないことが多い」が5割半ば

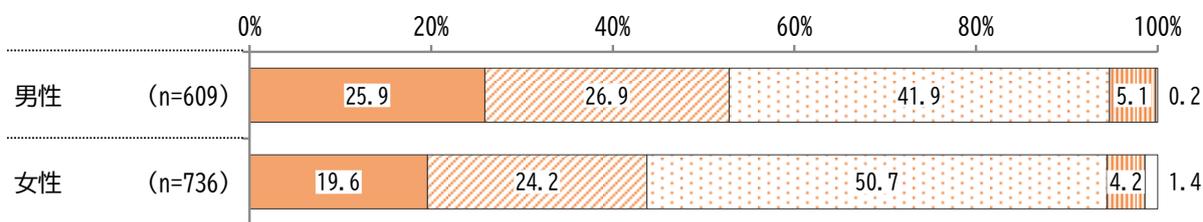
「気にかけているが、できないことが多い」が 55.8%、次いで「ごみの減量を行っている」が 39.2%となっています。

性別で見ると、「ごみの減量を行っている」と回答した方の割合は、女性の方が高くなっています。

問4-5 あなたは日ごろから健康維持・増進活動を行っていますか。(○は1つだけ)



【性別】

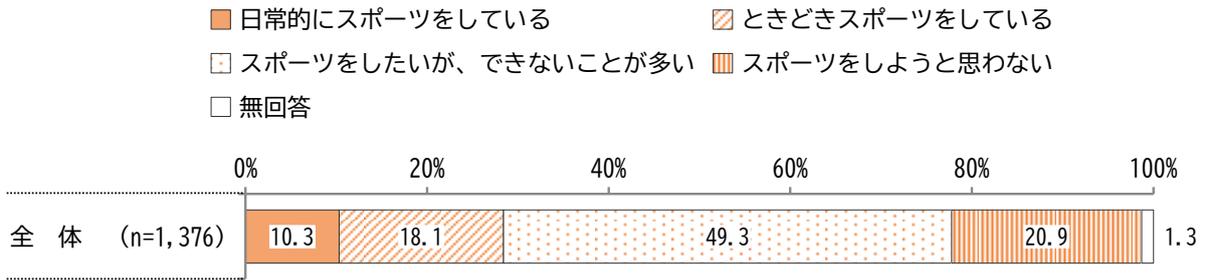


●5割近くの方が健康維持・増進活動を「気にかけているが、できないことが多い」

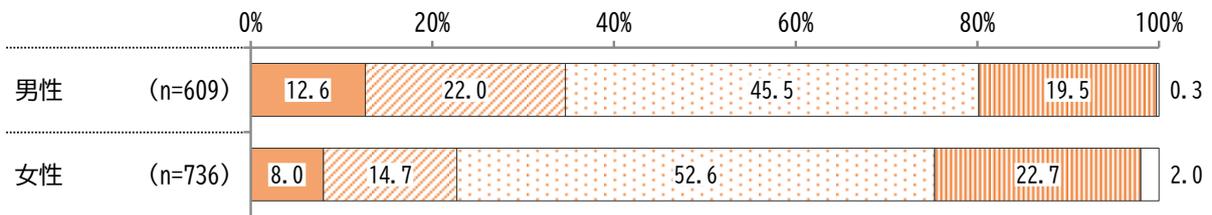
「気にかけているが、できないことが多い」が46.5%で最も多く、次いで「ときどき健康づくり活動を行っている」が25.5%となっています。

性別でみると、「日常的に健康づくり活動を行っている」「ときどき健康づくり活動を行っている」を合わせた割合は女性(43.8%)に比べ、男性(52.8%)の方が高くなっています。

問4-6 あなたは日ごろからスポーツに親しんでいますか。(〇は1つだけ)



【性別】

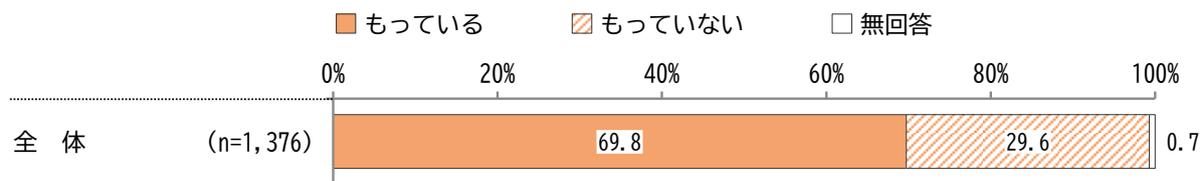


● 「スポーツをしたいが、できないことが多い」が約5割

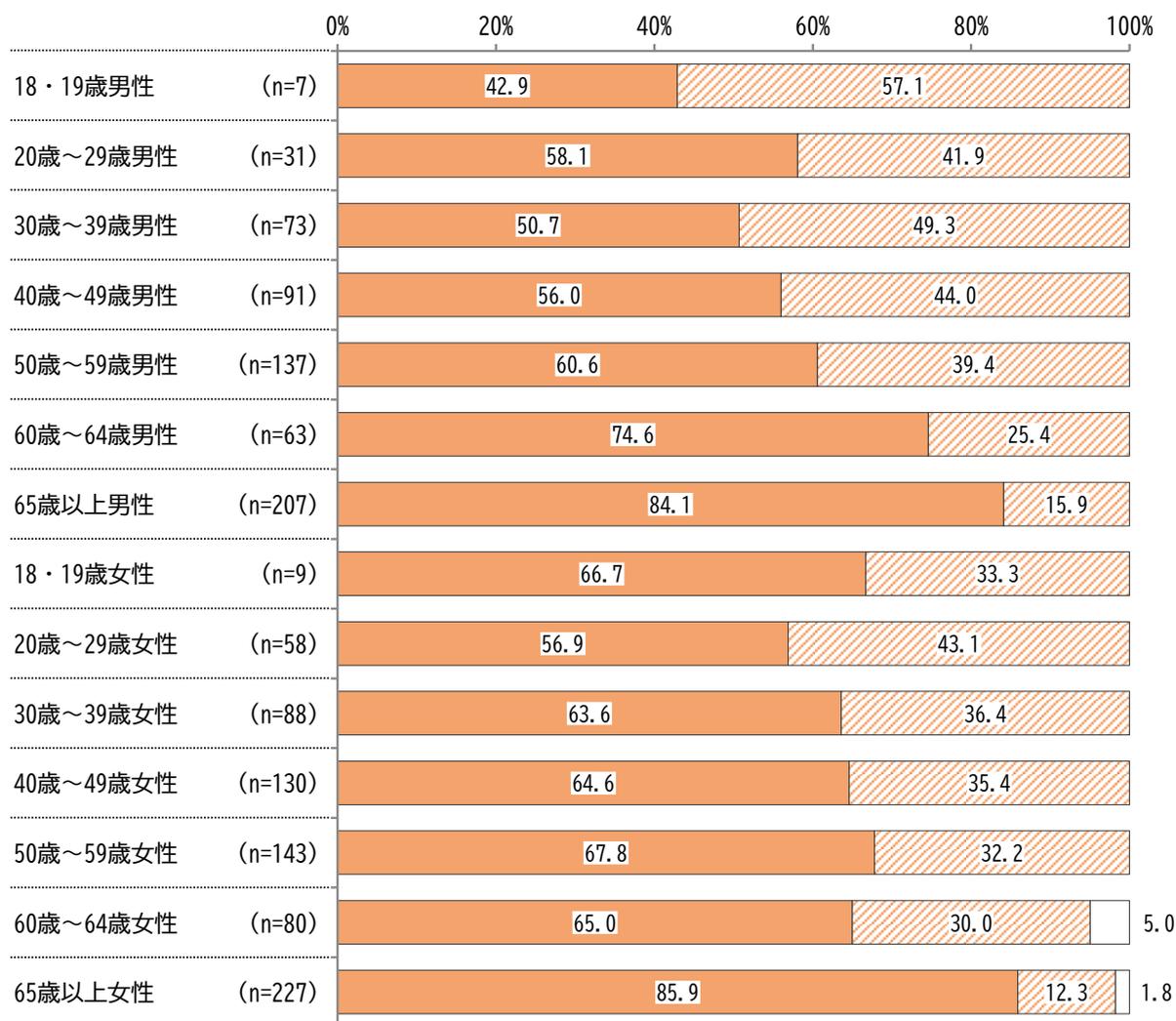
「スポーツをしたいが、できないことが多い」が49.3%、次いで「スポーツをしようと思わない」が20.9%となっています。

性別で見ると、男女ともに「スポーツをしたいが、できないことが多い」が最も高く、男性が45.5%、女性が52.6%となっています。次いで、男性は「ときどきスポーツをしている」が22.0%、女性は「スポーツをしようと思わない」が22.7%となっています。

問4-7 あなたはかかりつけ医をもっていますか。(○は1つだけ)



【性・年齢別】

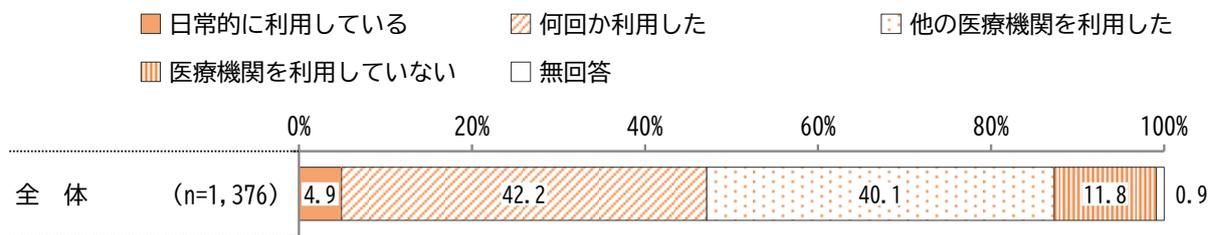


●かかりつけ医を「もっている」が約7割

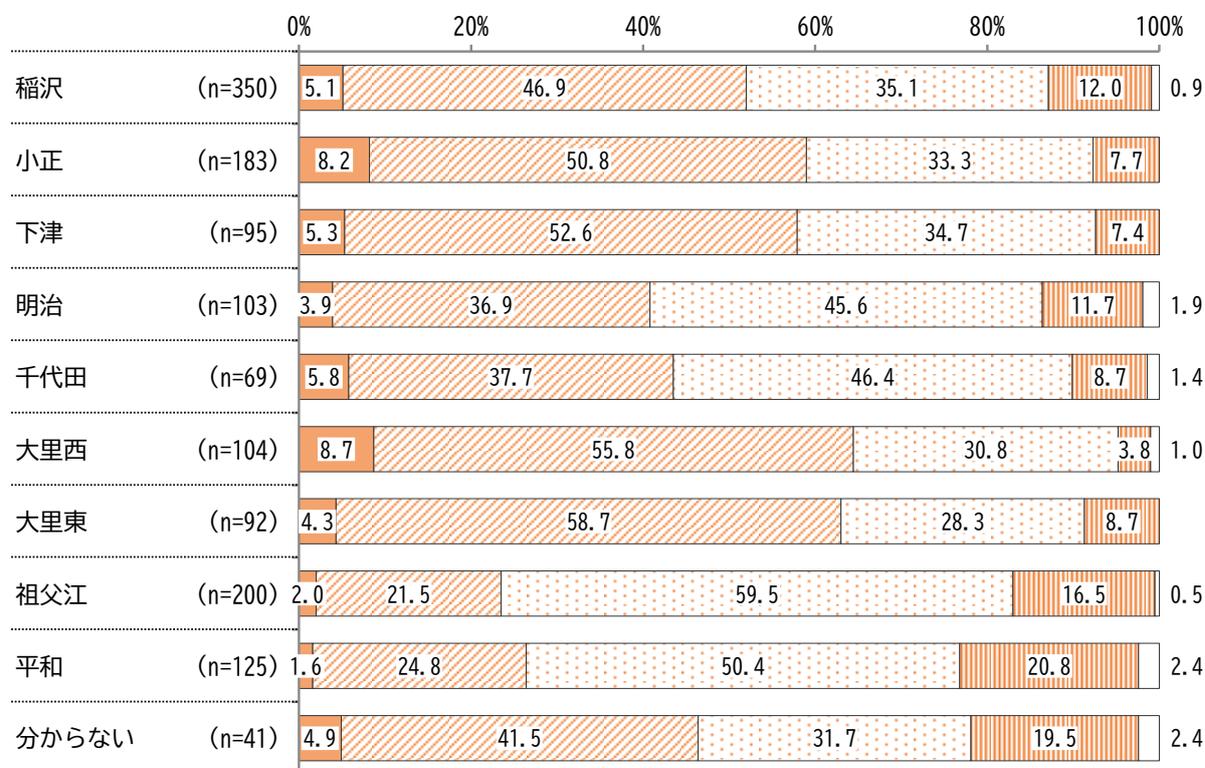
「もっている」が69.8%、「もっていない」が29.6%となっています。

性・年齢別でみると、65歳以上の男性・女性ともに8割を超える方が「もっている」と回答しています。

問4-8 あなたは市民病院が開院（平成26年）してから利用しましたか。
（○は1つだけ）



【居住地区別】



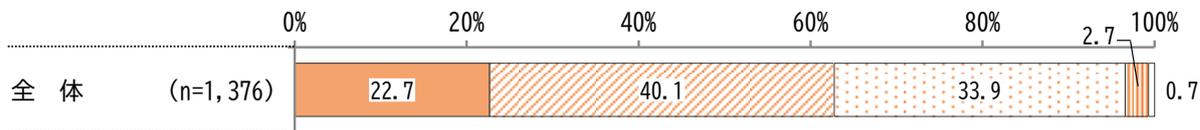
●開院してから市民病院を利用した方が5割近く

「日常的に利用している」「何回か利用した」を合わせた割合は 47.1%で、5割近くの方が市民病院を利用しています。

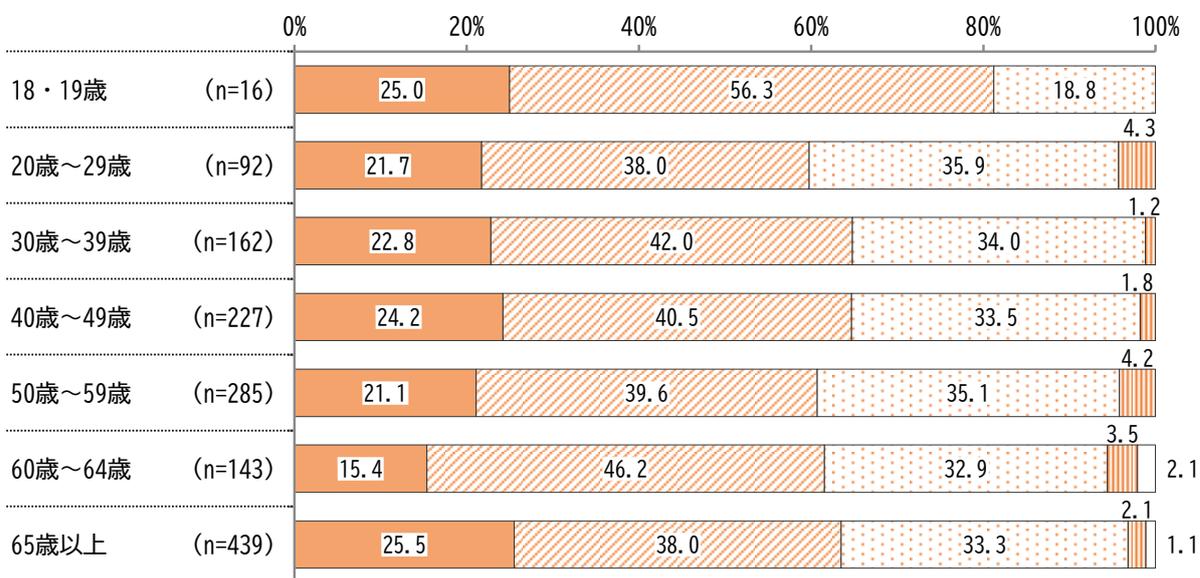
居住地区別でみると、「日常的に利用している」「何回か利用した」を合わせた割合は、稲沢・小正・下津・大里西・大里東地区が5割以上の一方、祖父江・平和地区は3割以下となっています。

問4-9 あなたのご家庭では災害時の飲料水や食糧を備蓄していますか。
(○は1つだけ)

- 3日程度の備蓄をしている
- ▨ 3日分はないが、備蓄している
- ▩ 備蓄しようと思っているが、できていない
- ▧ 備蓄しようと思わない
- 無回答



【年齢別】

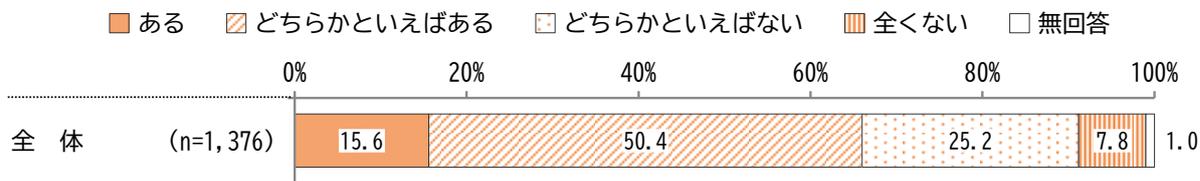


●災害時の飲料水や食糧を備蓄している方は約6割

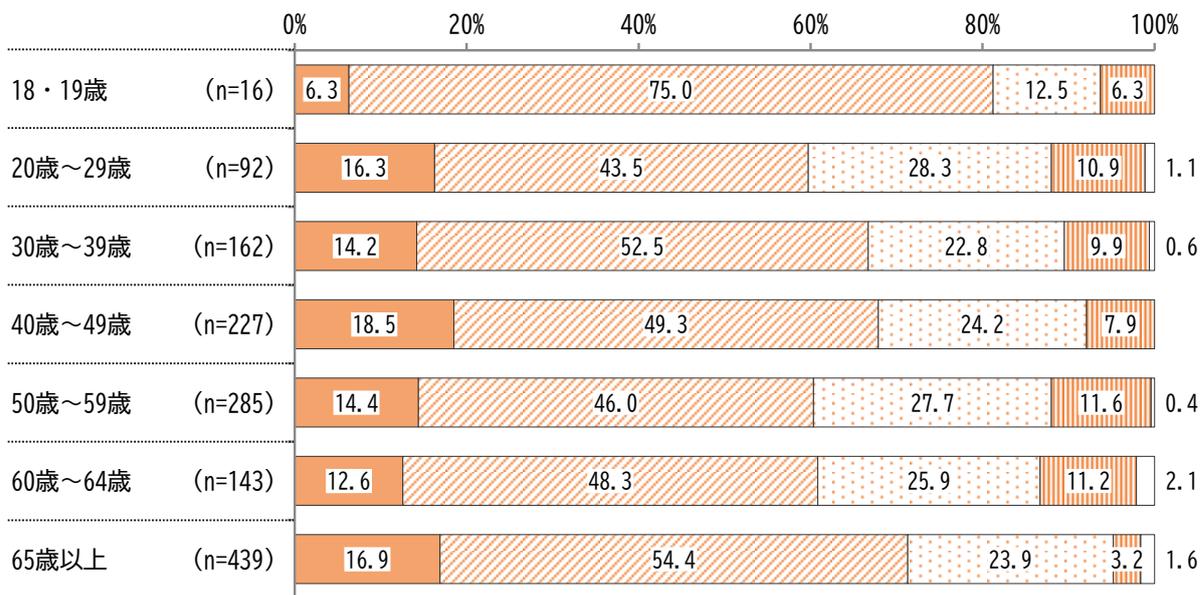
「3日程度の備蓄をしている」と「3日分はないが、備蓄している」を合わせた割合は 62.8%で、約6割の方が何らかの備蓄をしていることが分かります。

年齢別でみると、全ての年代で「3日程度の備蓄をしている」と「3日分はないが、備蓄している」を合わせた割合が5割を超えています。

問4-10 あなたは稲沢市に対する誇りや愛着がありますか。(○は1つだけ)



【年齢別】

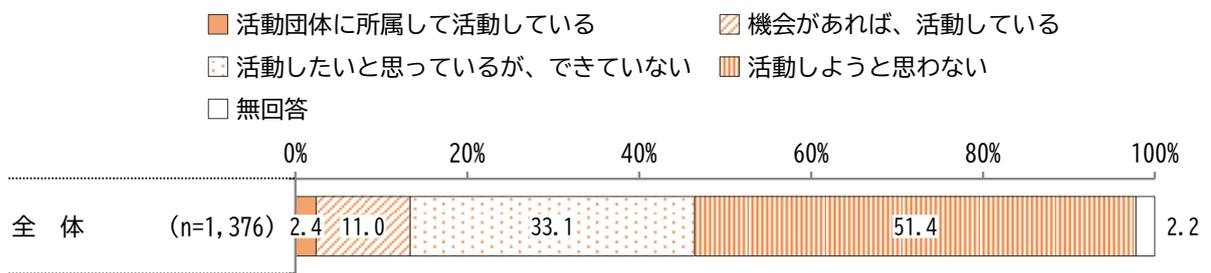


●稲沢市に対する誇りや愛着が“ある”方が6割半ば

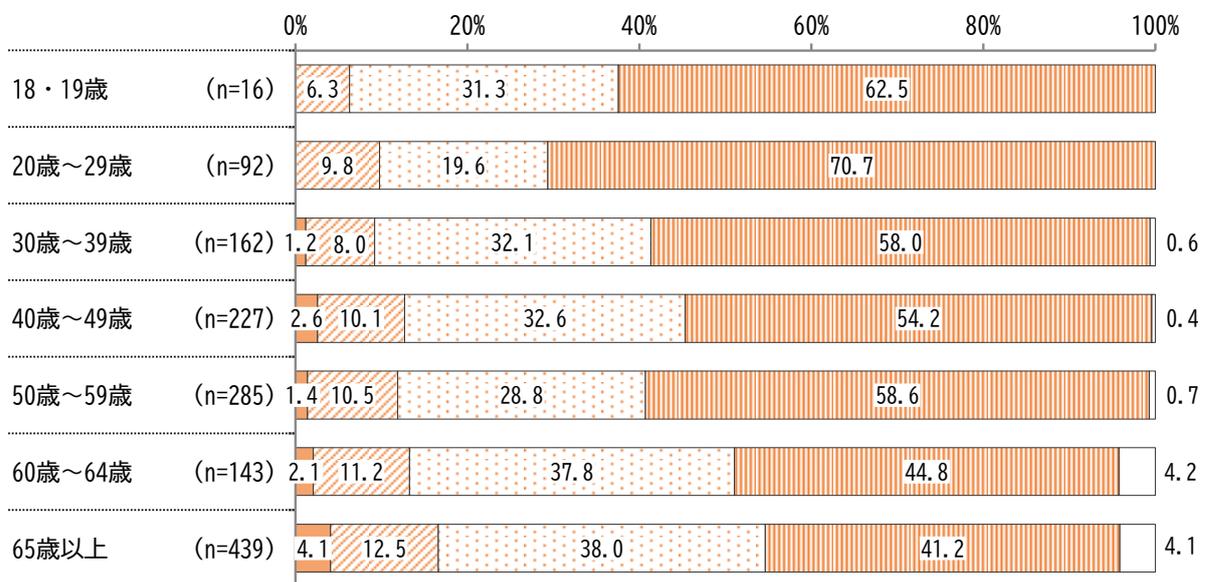
「ある」と「どちらかといえばある」を合わせた“ある”が66.0%となっています。

年齢別で見ると、18・19歳と65歳以上で“ある”の割合が他と比べ高くなっています。

問4-11 あなたは行政と市民（企業やNPO含む）の協働によるまちづくり活動をしていますか。（〇は1つだけ）



【年齢別】



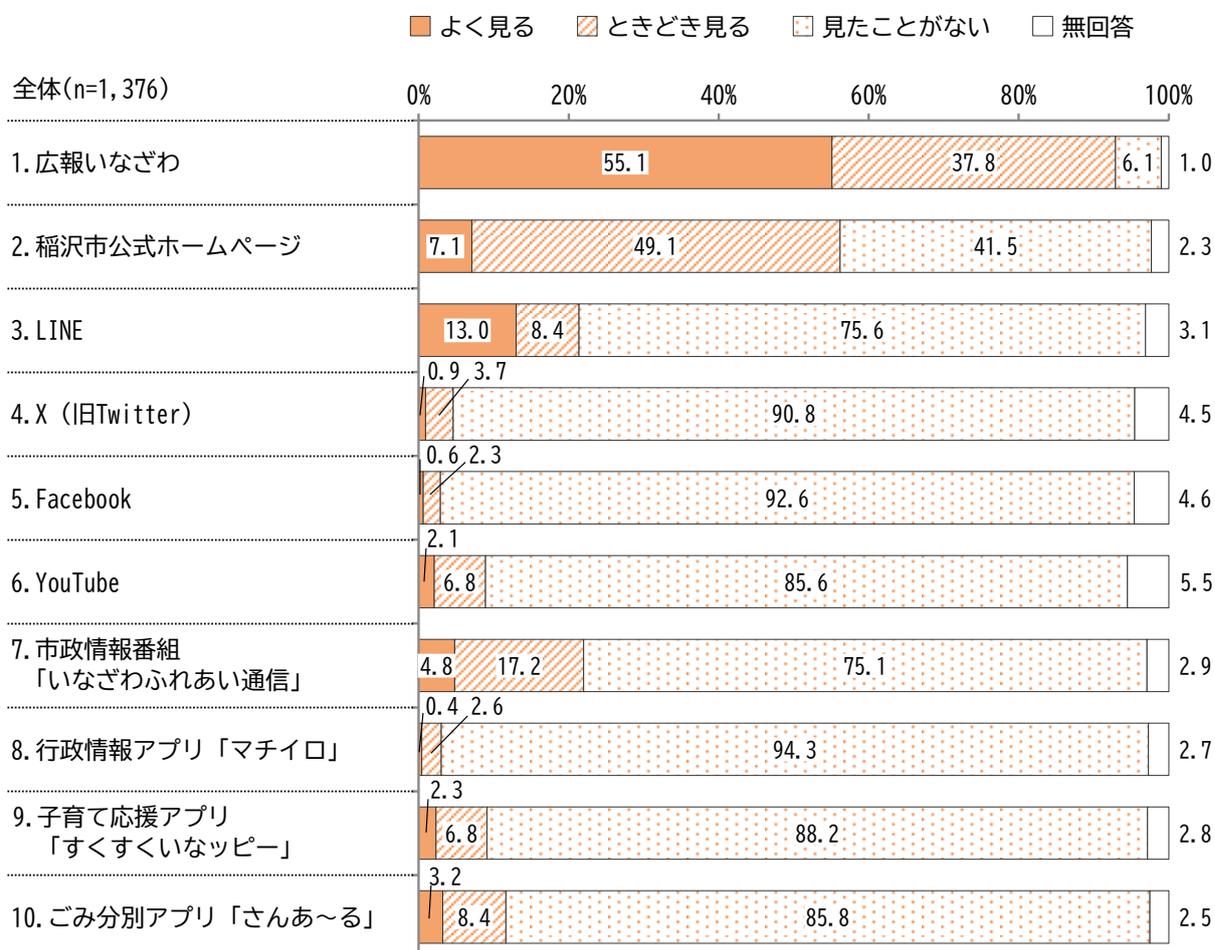
●まちづくり活動を「しようと思わない」方が約5割

「活動しようと思わない」が 51.4%と最も多く、次いで「活動したいと思っているが、できていない」が 33.1%となっています。

年齢別で見ると、年齢が上がるにつれ「活動団体に所属して活動している」と「機会があれば、活動している」を合わせた割合が高くなる傾向がみられます。また、他に比べ 20 歳～29 歳で「活動しようと思わない」の割合が高くなっています。

3 市政情報の取得手段について

問5 稲沢市では、次のような手段を使って、市政情報を市民の皆さんに提供しています。次の各媒体を見たことがありますか。（それぞれについて○は1つだけ）



【年齢別】

単位：％

区分	回答者数 (件)	1. 広報いなざわ				2. 稲沢市公式ホームページ			
		よく見る	ときどき 見る	見たこと がない	無回答	よく見る	ときどき 見る	見たこと がない	無回答
18・19歳	16	6.3	56.3	37.5	-	-	31.3	68.8	-
20歳～29歳	92	27.2	45.7	26.1	1.1	6.5	47.8	44.6	1.1
30歳～39歳	162	50.0	41.4	8.6	-	8.6	59.3	32.1	-
40歳～49歳	227	49.3	45.4	5.3	-	7.0	69.2	23.3	0.4
50歳～59歳	285	53.0	42.5	4.6	-	8.1	57.2	34.0	0.7
60歳～64歳	143	55.9	38.5	4.2	1.4	7.7	51.7	37.1	3.5
65歳以上	439	68.6	27.1	2.1	2.3	6.2	30.1	59.0	4.8

区分	回答者数 (件)	3. LINE				4. X (旧Twitter)			
		よく見る	ときどき 見る	見たこと がない	無回答	よく見る	ときどき 見る	見たこと がない	無回答
18・19歳	16	-	6.3	93.8	-	-	6.3	93.8	-
20歳～29歳	92	5.4	4.3	89.1	1.1	3.3	5.4	90.2	1.1
30歳～39歳	162	16.7	11.7	71.0	0.6	1.2	7.4	90.1	1.2
40歳～49歳	227	19.4	8.4	71.8	0.4	1.3	6.2	91.2	1.3
50歳～59歳	285	12.6	9.5	76.8	1.1	1.1	3.5	93.7	1.8
60歳～64歳	143	14.0	7.0	75.5	3.5	0.7	1.4	93.0	4.9
65歳以上	439	10.3	7.7	75.2	6.8	0.2	1.6	88.4	9.8

区分	回答者数 (件)	5. Facebook				6. YouTube			
		よく見る	ときどき 見る	見たこと がない	無回答	よく見る	ときどき 見る	見たこと がない	無回答
18・19歳	16	-	-	100.0	-	-	12.5	87.5	-
20歳～29歳	92	1.1	2.2	95.7	1.1	2.2	4.3	91.3	2.2
30歳～39歳	162	1.2	3.7	93.8	1.2	3.1	11.1	85.2	0.6
40歳～49歳	227	0.4	3.1	95.2	1.3	1.8	8.4	87.2	2.6
50歳～59歳	285	-	2.5	95.8	1.8	2.1	6.3	89.1	2.5
60歳～64歳	143	1.4	1.4	91.6	5.6	2.1	5.6	87.4	4.9
65歳以上	439	0.5	1.6	88.2	9.8	2.1	5.5	80.9	11.6

区分	回答者数 (件)	7. 市政情報番組「いなざわふれあい通信」				8. 行政情報アプリ「マチイロ」			
		よく見る	ときどき 見る	見たこと がない	無回答	よく見る	ときどき 見る	見たこと がない	無回答
18・19歳	16	-	18.8	81.3	-	-	6.3	93.8	-
20歳～29歳	92	1.1	9.8	88.0	1.1	-	4.3	94.6	1.1
30歳～39歳	162	3.7	12.3	83.3	0.6	0.6	5.6	93.2	0.6
40歳～49歳	227	1.8	19.8	78.4	-	-	1.8	98.2	-
50歳～59歳	285	4.9	14.0	80.0	1.1	0.4	1.8	96.8	1.1
60歳～64歳	143	4.2	18.9	72.0	4.9	-	1.4	95.1	3.5
65歳以上	439	7.7	20.3	65.8	6.2	0.9	2.5	90.7	5.9

区分	回答者数 (件)	9. 子育て応援アプリ 「すくすくいなっぴー」				10. ごみ分別アプリ「さんあ〜る」			
		よく見る	ときどき 見る	見たこと がない	無回答	よく見る	ときどき 見る	見たこと がない	無回答
18・19歳	16	-	6.3	93.8	-	-	12.5	87.5	-
20歳～29歳	92	1.1	10.9	87.0	1.1	2.2	7.6	89.1	1.1
30歳～39歳	162	11.7	20.4	67.3	0.6	4.3	10.5	84.6	0.6
40歳～49歳	227	1.8	11.9	86.3	-	3.5	12.8	83.7	-
50歳～59歳	285	0.7	2.1	96.1	1.1	3.9	6.3	88.8	1.1
60歳～64歳	143	1.4	2.8	92.3	3.5	1.4	7.7	87.4	3.5
65歳以上	439	0.9	2.5	90.4	6.2	3.2	7.1	84.3	5.5

● 「広報いなざわ」を“見る”が約9割

「広報いなざわ」は「よく見る」と「ときどき見る」を合わせた割合が92.9%と、約9割の方が「広報いなざわ」をご覧になっています。一方で、SNS(LINE、X、Facebook、YouTube)は、「見たことがない」という方の割合が非常に高くなっています。

年齢別でみると、年齢が上がるにつれ「広報いなざわ」をご覧になる方の割合が高くなりますが、LINEについては、他に比べ30歳～39歳、40歳～49歳で「よく見る」と「ときどき見る」を合わせた割合が高くなっています。

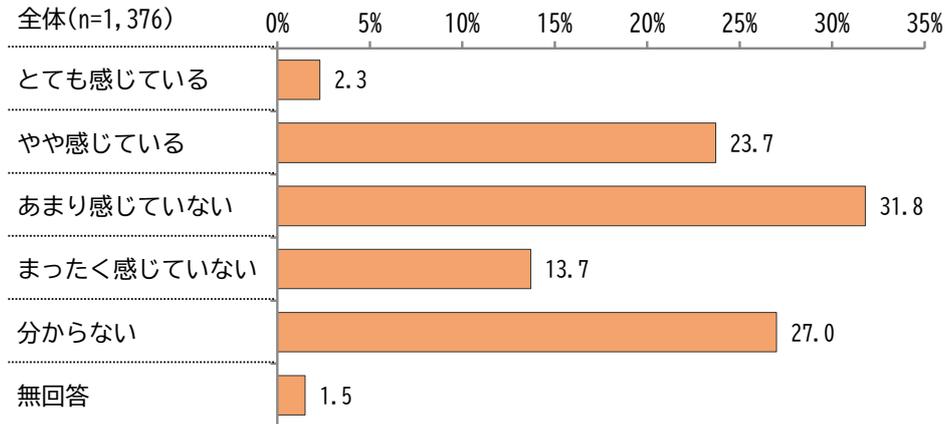
今回の結果から、広報いなざわが市政情報の取得手段として最も利用されていること、次いで、ホームページや市政情報番組「いなざわふれあい通信」、LINEを見ている方が比較的多いことが分かりました。

今後の情報発信方法を検討する上での参考とします。

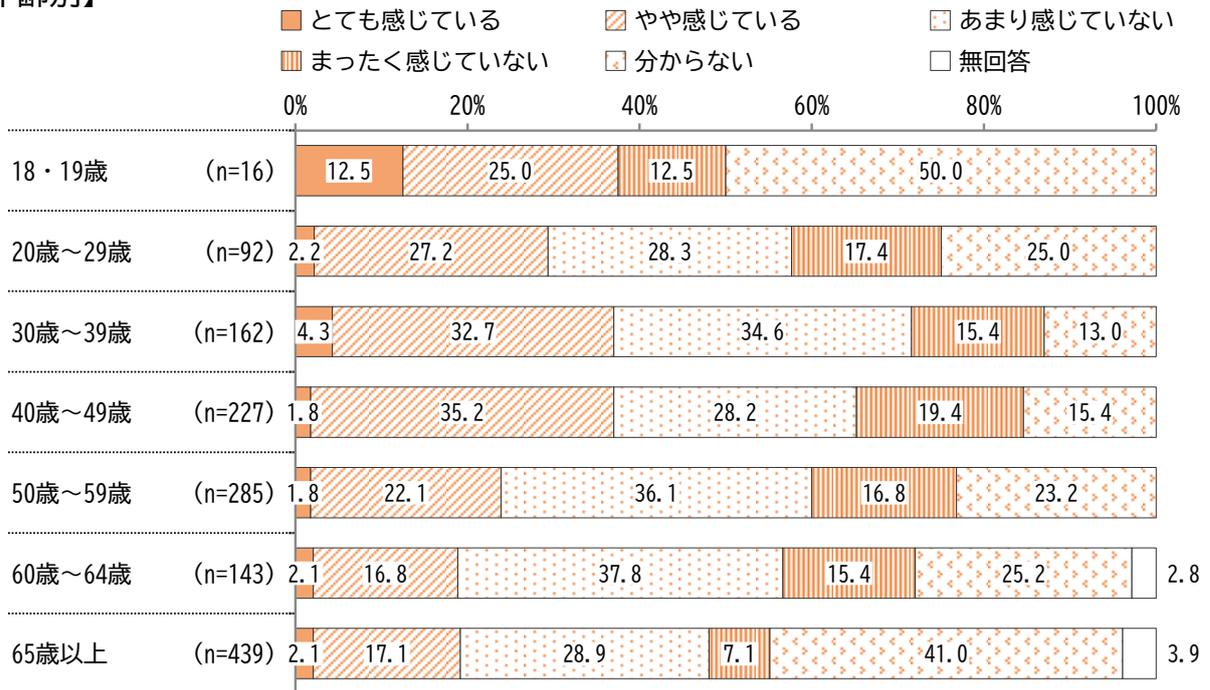
4 市業務のデジタル化の推進について

問6 現在、稲沢市はデジタル化に向けた取り組みを行っていますが、デジタル化*が進んでいると感じますか。(〇は1つだけ)

*ここでの「デジタル化」とは、窓口事務などにおいて、市民の方がパソコンやスマートフォンなどを使用し、来庁せずに電子申請やスマホ決済などができることを指します



【年齢別】

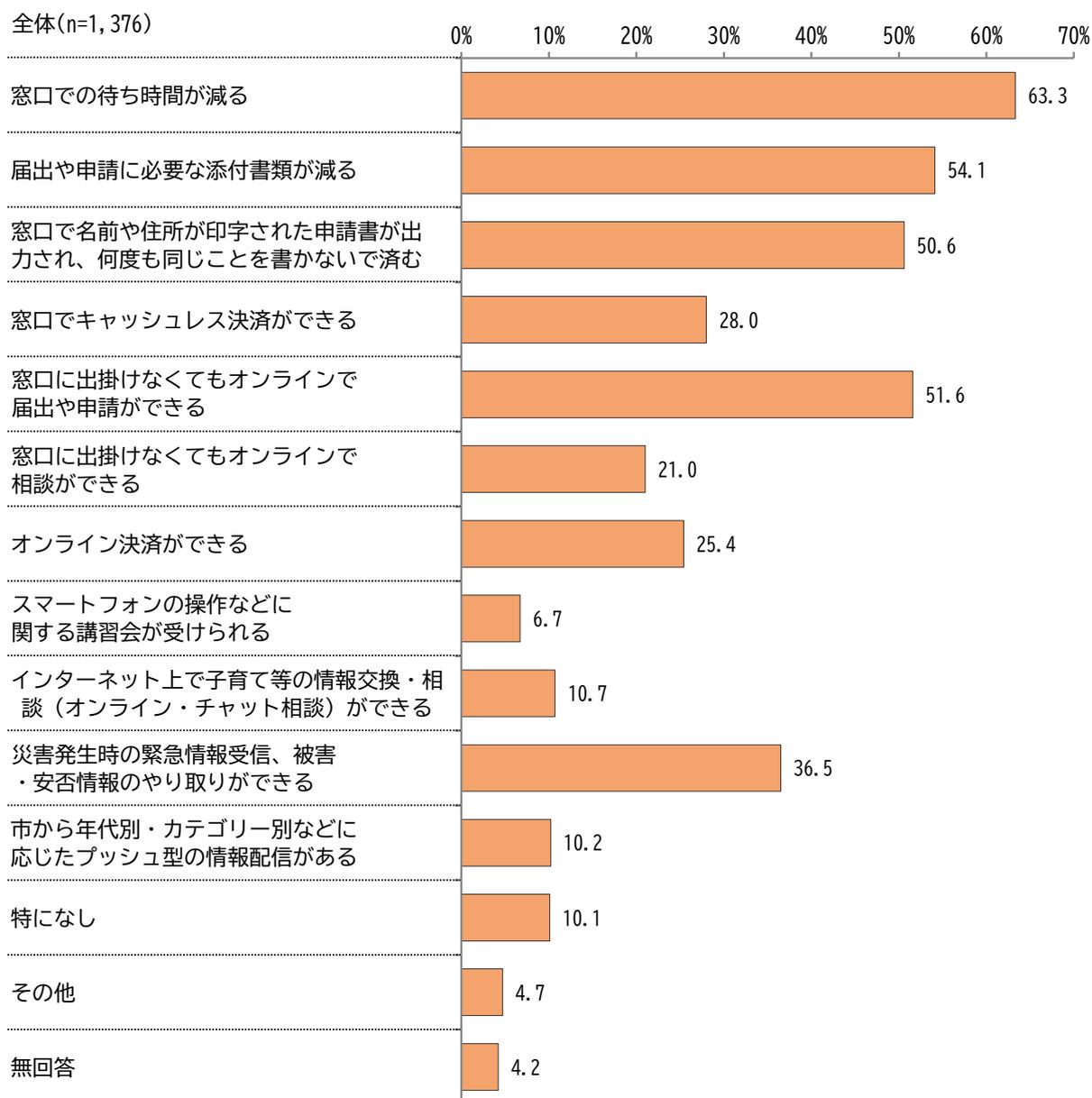


●稲沢市のデジタル化が進んでいると感じている方は2割半ば

「とても感じている」「やや感じている」を合わせた“感じている”が26.0%に対し、「あまり感じていない」「まったく感じていない」を合わせた“感じていない”は45.5%と、デジタル化が進んでいないと感じるの方が多くなっています。

年齢別で見ると、他と比べ18・19歳で「とても感じている」の割合が高くなっています。

問7 今後行政手続きや行政サービスがデジタル化されることで、サービスがどのように良くなることを期待しますか。（あてはまるもの全てに○）



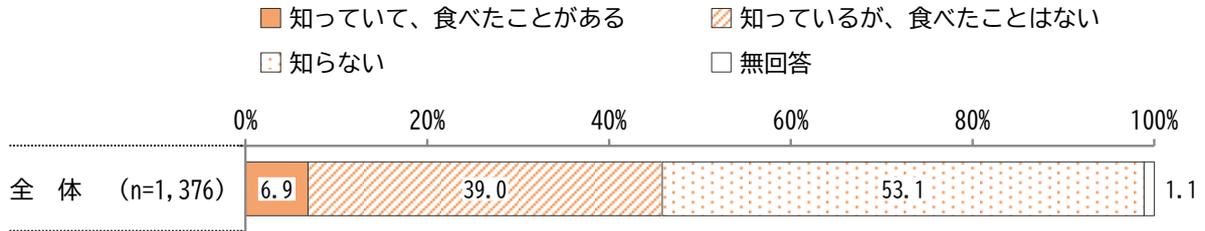
●デジタル化により「窓口での待ち時間が減る」を期待する方が約6割

「窓口での待ち時間が減る」が 63.3%で最も高く、次いで「届出や申請に必要な添付書類が減る」が 54.1%、「窓口に出掛けなくてもオンラインで届出や申請ができる」が 51.6%となっています。

市業務のデジタル化が進むことが期待される分野について把握することができました。今後も、市民の皆さんのニーズに沿ったデジタル化の推進に取り組んでいきます。

5 ご当地グルメ（カレー）の認知度について

問8 稲沢市の推進しているご当地グルメがカレー料理であることを知っていますか。
(○は1つだけ)



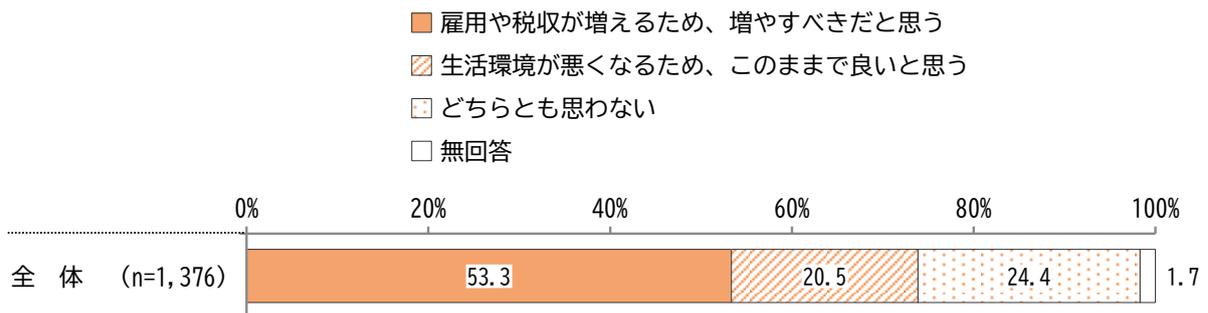
●稲沢市のご当地グルメがカレー料理であることを“知っている”方は4割半ば

「知っている、食べたことがある」と「知っているが、食べたことはない」を合わせた割合は 45.9%で、“知っている”方は5割に満たないという結果になりました。

ご当地グルメとしてさらに多くの方に認知していただけるよう、今後も PR に努めていきます。

6 新たな工業ゾーンについて

問9 工場が増えることについてどう思いますか。(○は1つだけ)



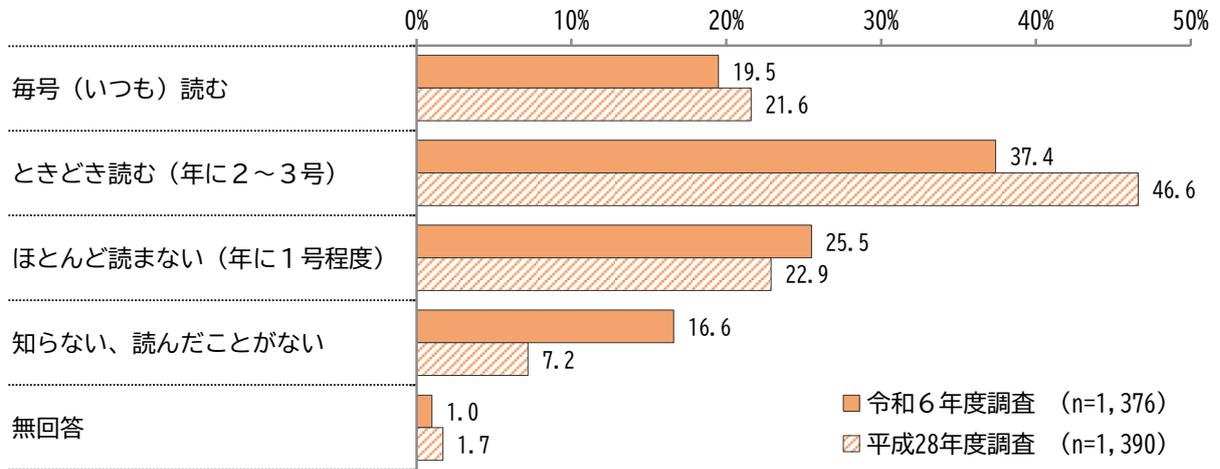
●新たな工場を「増やすべき」と答えた方が約5割

「雇用や税収が増えるため、増やすべきだと思う」が 53.3%と、「生活環境が悪くなるため、このままで良いと思う(20.5%)」を大きく上回りました。

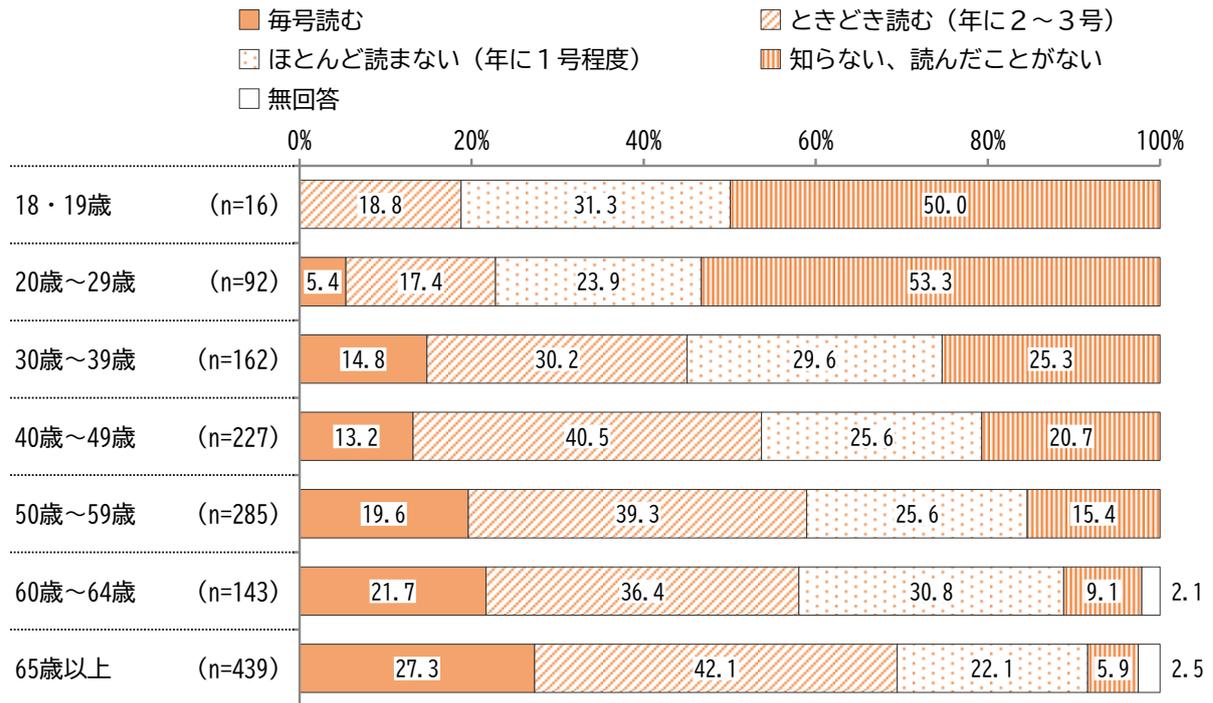
今回の結果を踏まえて、工業ゾーンの拡大などを検討していきます。

7 稲沢市議会の広報について

問 10 稲沢市議会では、議会の情報を発信する「いなざわ議会だより」を年間で4号発行し、市民の皆さんに配布しています。「いなざわ議会だより」を読んだことはありますか。(〇は1つだけ)



【年齢別】



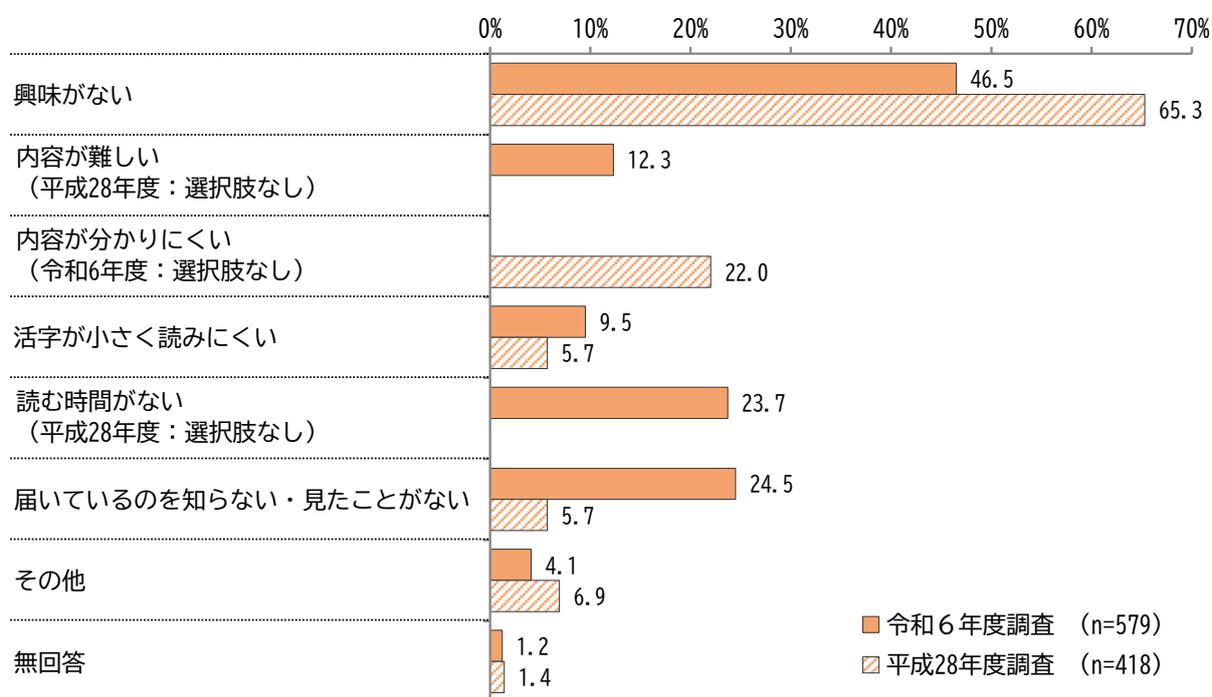
● 「いなざわ議会だより」を“読む”方は5割半ば

「毎号(いつも)読む」と「ときどき読む(年に2~3号)」を合わせた割合は 56.9%で、5割半ばの方が“読む”と回答しています。

年齢別で見ると、18・19歳、20歳~29歳の約5割が「知らない、読んだことがない」と回答しています。

問10で「3. ほとんど読まない（年に1号程度）」「4. 知らない、読んだことがない」と答えた方にお尋ねします。

問10-1 その理由は何ですか。（あてはまるもの全てに○）



【年齢別】

単位：%

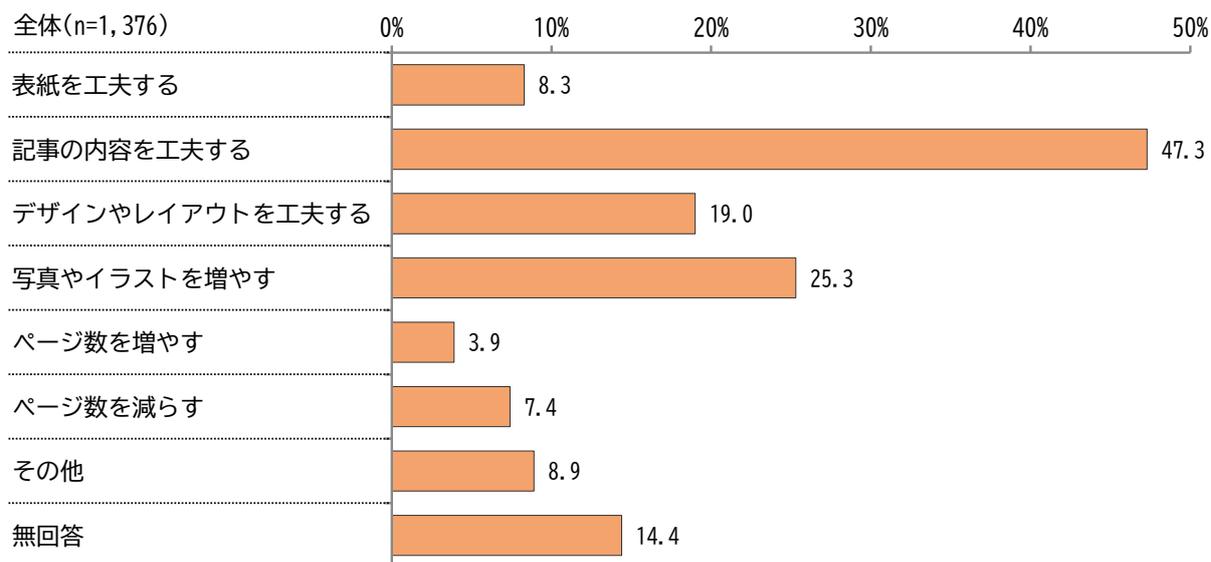
区分	回答者数 (件)	興味がない	内容が難しい	活字が小さく読みにくい	読む時間がない	届いているの知らない・見たことがない	その他	無回答
18・19歳	13	69.2	15.4	-	7.7	38.5	-	-
20歳～29歳	71	39.4	5.6	5.6	25.4	39.4	2.8	-
30歳～39歳	89	39.3	11.2	4.5	32.6	33.7	6.7	-
40歳～49歳	105	49.5	14.3	5.7	33.3	26.7	1.9	-
50歳～59歳	117	50.4	8.5	7.7	21.4	23.1	1.7	1.7
60歳～64歳	57	40.4	12.3	22.8	19.3	17.5	10.5	-
65歳以上	123	51.2	16.3	13.8	13.8	11.4	4.1	4.1

● 「いなざわ議会だより」を読まない理由は「興味がない」が4割半ば

「興味がない」が46.5%で最も高く、次いで「届いているの知らない・見たことがない」が24.5%、「読む時間がない」が23.7%となっています。

年齢別でみると、全ての年代で「興味がない」が最も高くなっています。

問 11 今後、「いなざわ議会だより」にどのような工夫や改善が必要だと思いますか。
(あてはまるもの全てに○)



【年齢別】

単位：%

区分	回答者数 (件)	表紙を工夫する	記事の内容を工夫する	デザインやレイアウトを工夫する	写真やイラストを増やす	ページ数を増やす	ページ数を減らす	その他	無回答
18・19歳	16	25.0	43.8	6.3	18.8	-	6.3	12.5	18.8
20歳～29歳	92	15.2	31.5	23.9	37.0	3.3	8.7	12.0	12.0
30歳～39歳	162	13.6	48.8	29.6	30.9	3.1	8.0	9.9	6.2
40歳～49歳	227	11.5	42.7	24.7	32.2	3.1	10.1	11.0	8.8
50歳～59歳	285	8.8	50.9	20.4	20.7	2.1	6.7	7.4	13.3
60歳～64歳	143	4.9	55.2	18.9	19.6	7.0	7.7	8.4	12.6
65歳以上	439	3.6	47.4	10.7	22.3	5.2	6.2	8.0	21.9

● 「記事の内容を工夫する」必要があると答えた方が5割近く

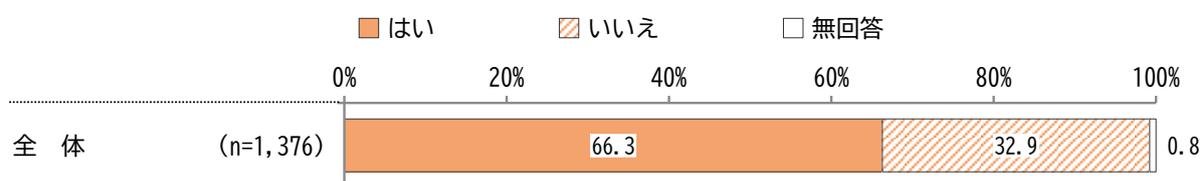
「記事の内容を工夫する」が 47.3%で最も高く、次いで「写真やイラストを増やす」が 25.3%、「デザインやレイアウトを工夫する」が 19.0%となっています。

年齢別でみると、20歳～29歳以外の全ての年代で「記事の内容を工夫する」が最も高くなっています。

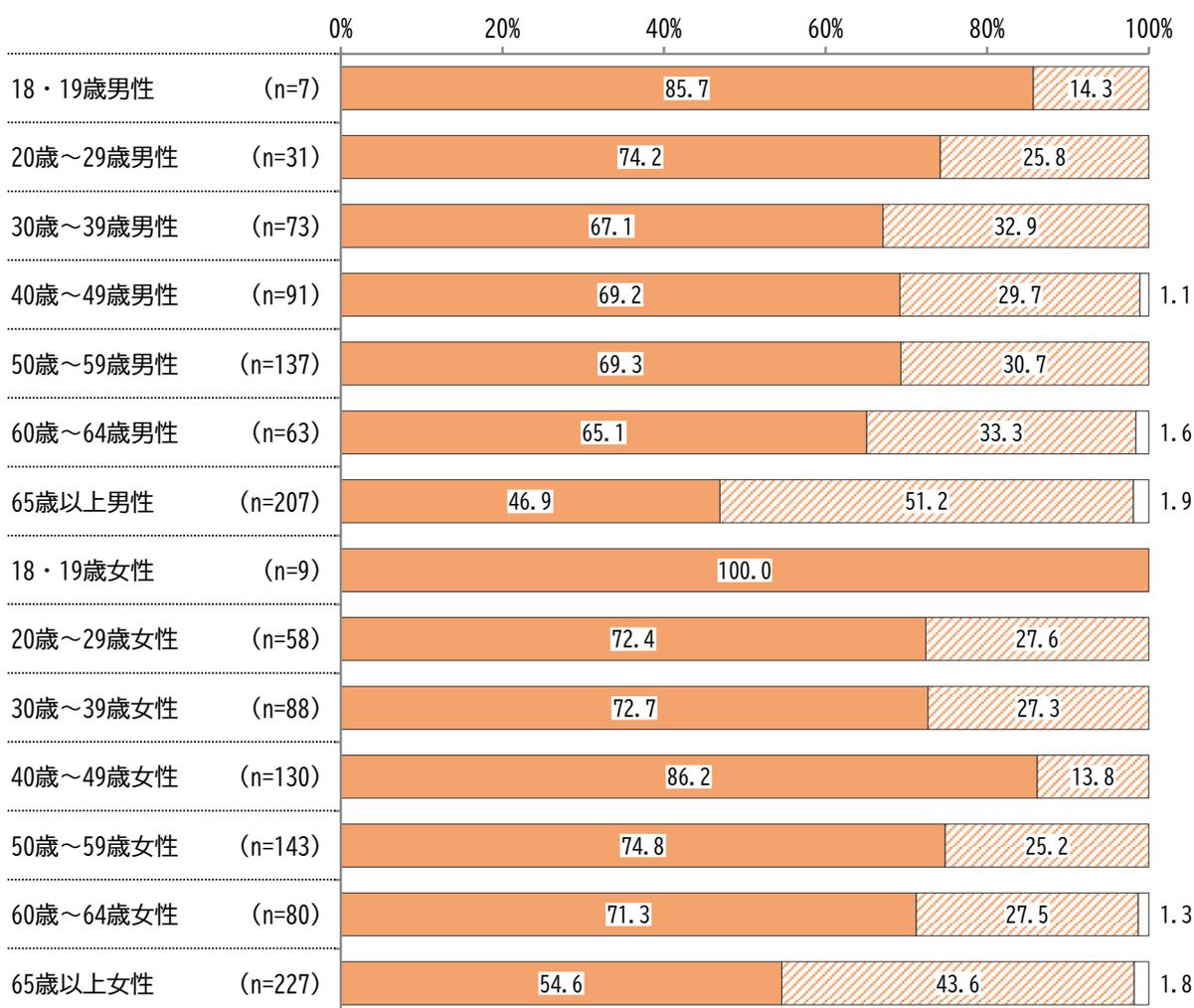
多くの皆さんに「いなざわ議会だより」を読んでいただけるように、写真やイラストを活用するなど、内容の充実を図っていきます。

8 図書館の利用状況について

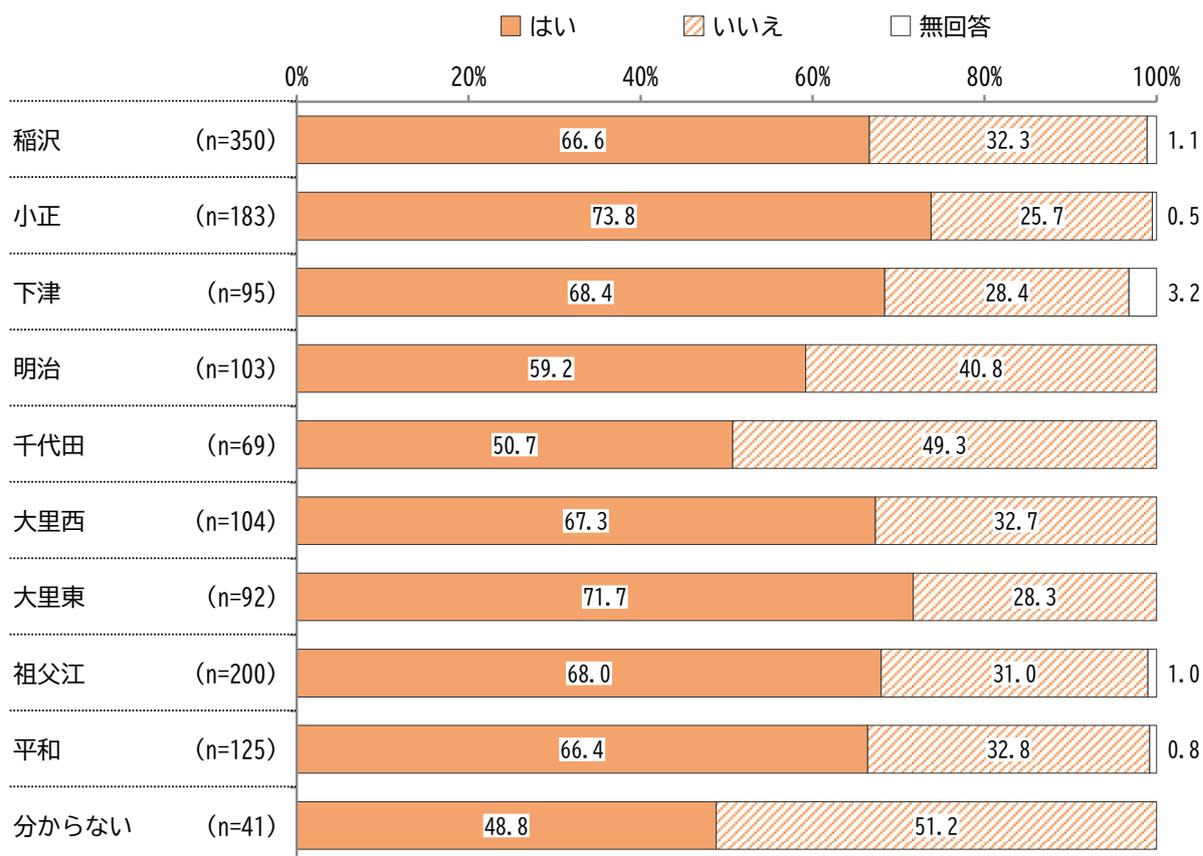
問 12 あなたは、今までに市の図書館を利用したことがありますか。（○は1つだけ）



【性・年齢別】



【居住地区別】



● 6割半ばが「図書館を利用したことがある」

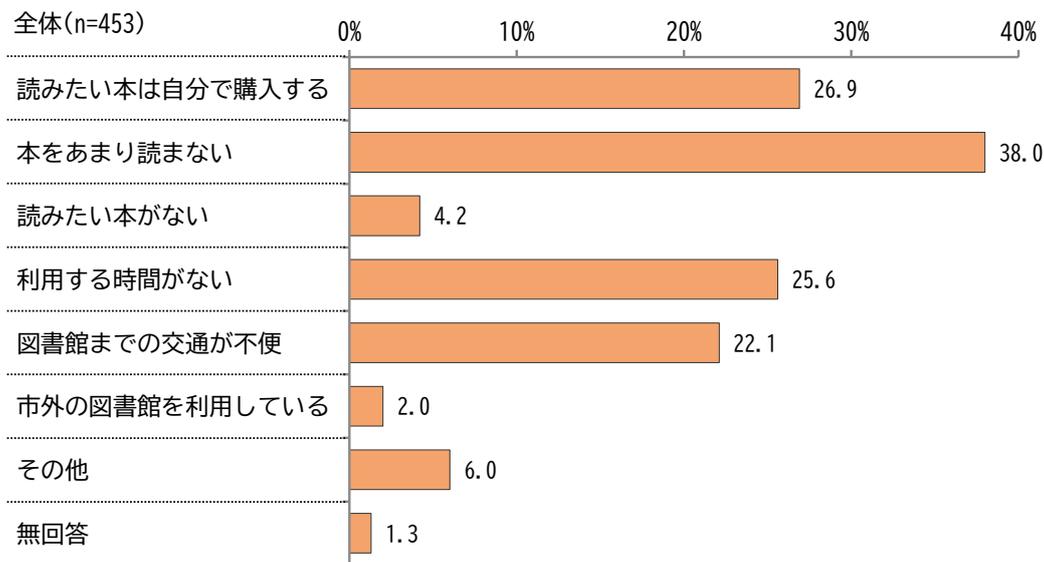
「はい」が66.3%、「いいえ」が32.9%となっています。

性・年齢別でみると、18・19歳女性が100%で最も利用しており、次いで40歳～49歳女性が86.2%と多く利用しています。

居住地区別でみると、明治・千代田以外の地区で「はい」が6割を超えています。

問12で「2. いいえ」と答えた方にお尋ねします。

問12-1 利用したことがない理由は何ですか。(あてはまるもの全てに○)



【性・年齢別】

単位：%

区分	回答者数 (件)	自読 分 み た 購 入 本 は 自 分 で 購 入 す る	読 ま な い 本 を あ ま り	な い 読 み た い 本 が	な い 利 用 す る 時 間 が	交 通 が 不 便 の 図 書 館 ま で の	市 外 の 図 書 館 を 利 用 し て い る	そ の 他	無 回 答
18・19歳男性	1	-	-	-	-	-	-	100.0	-
20歳～29歳男性	8	12.5	62.5	12.5	37.5	25.0	12.5	-	-
30歳～39歳男性	24	25.0	37.5	-	50.0	29.2	-	-	-
40歳～49歳男性	27	37.0	25.9	-	37.0	14.8	-	3.7	-
50歳～59歳男性	42	19.0	42.9	9.5	23.8	26.2	2.4	2.4	-
60歳～64歳男性	21	33.3	42.9	-	33.3	9.5	-	9.5	-
65歳以上男性	106	27.4	40.6	4.7	16.0	17.0	0.9	5.7	3.8
18・19歳女性	-	-	-	-	-	-	-	-	-
20歳～29歳女性	16	25.0	31.3	-	12.5	31.3	-	12.5	-
30歳～39歳女性	24	8.3	41.7	8.3	58.3	12.5	4.2	20.8	-
40歳～49歳女性	18	27.8	27.8	5.6	38.9	22.2	5.6	16.7	-
50歳～59歳女性	36	38.9	30.6	2.8	25.0	25.0	2.8	5.6	-
60歳～64歳女性	22	18.2	36.4	-	18.2	18.2	13.6	9.1	4.5
65歳以上女性	99	28.3	39.4	5.1	18.2	30.3	-	2.0	1.0

【居住地区別】

単位：％

区分	回答者数 (件)	自読み たい本は 自分で購 入する	本をあまり 読まない	読みたい 本がない	利用する 時間がない	図書館まで の交通が不 便	市外の図 書館を利 用している	その他	無回答
稲沢	113	29.2	35.4	5.3	29.2	20.4	-	7.1	-
小正	47	29.8	34.0	2.1	27.7	19.1	2.1	2.1	-
下津	27	29.6	37.0	3.7	22.2	29.6	3.7	-	-
明治	42	16.7	42.9	2.4	19.0	31.0	-	2.4	-
千代田	34	26.5	29.4	-	29.4	26.5	5.9	2.9	5.9
大里西	34	17.6	55.9	8.8	17.6	14.7	2.9	2.9	2.9
大里東	26	26.9	26.9	7.7	34.6	46.2	3.8	15.4	-
祖父江	62	29.0	38.7	4.8	27.4	9.7	1.6	6.5	1.6
平和	41	31.7	36.6	-	22.0	17.1	-	9.8	2.4
分からない	21	23.8	47.6	9.5	14.3	33.3	9.5	14.3	4.8

●図書館を利用したことがない理由は「本をあまり読まない」からが4割近く

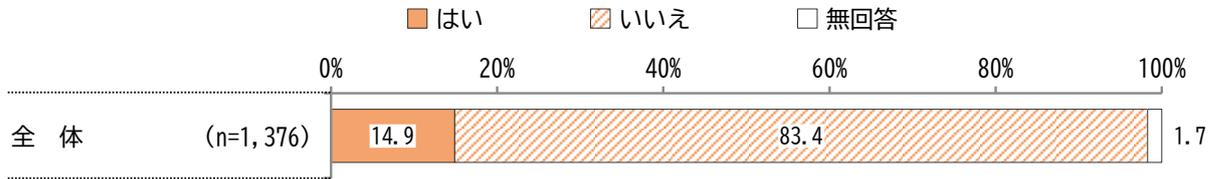
「本をあまり読まない」が 38.0%で最も高く、次いで「読みたい本は自分で購入する」が 26.9%、「利用する時間がない」が 25.6%となっています。

性・年齢別でみると、男女とも 30 歳～49 歳で「利用する時間がない」の割合が高くなっています。

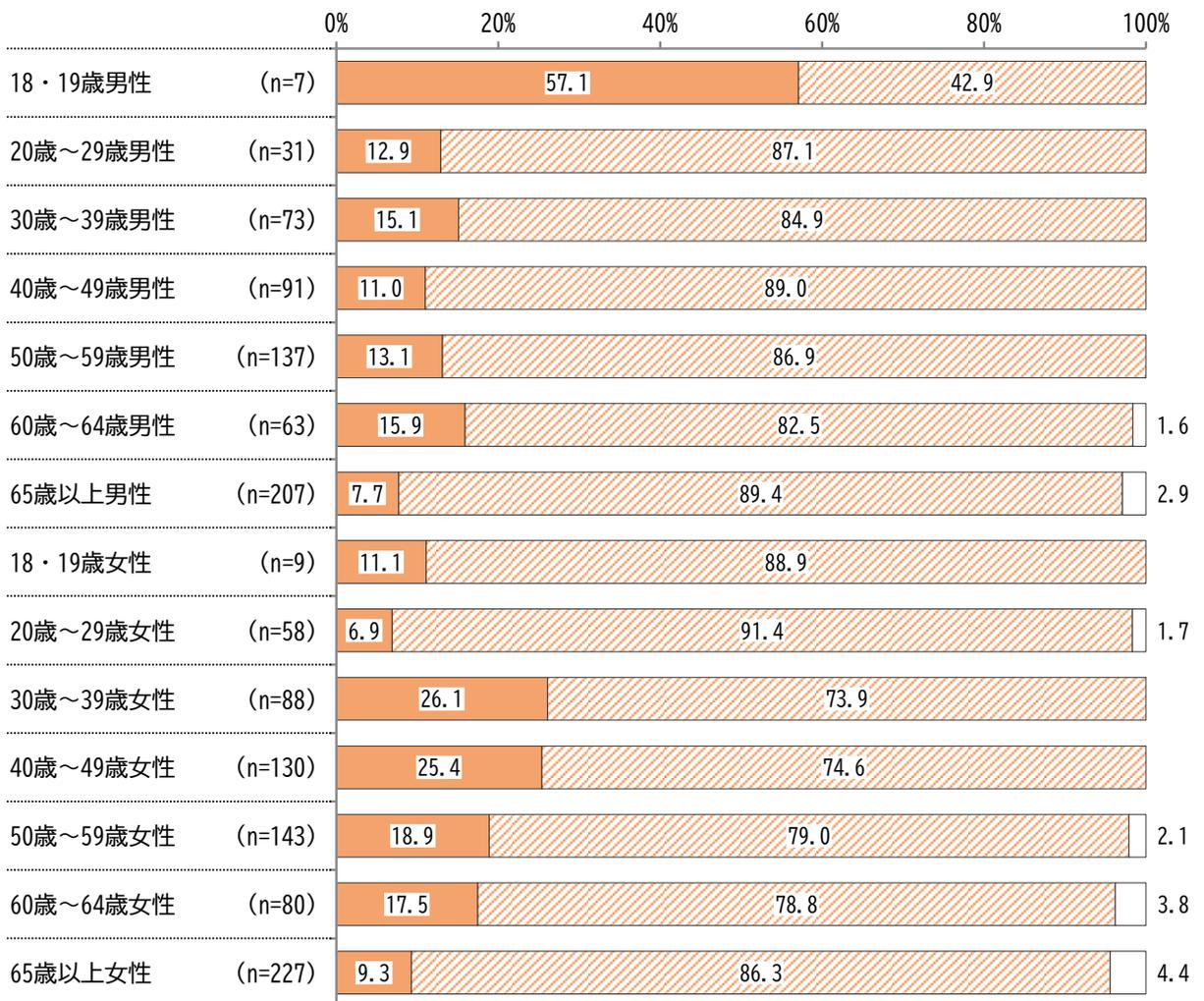
居住地区別でみると、大里東地区で「図書館までの交通が不便」の割合が高くなっています。

9 電子図書館の利用状況について

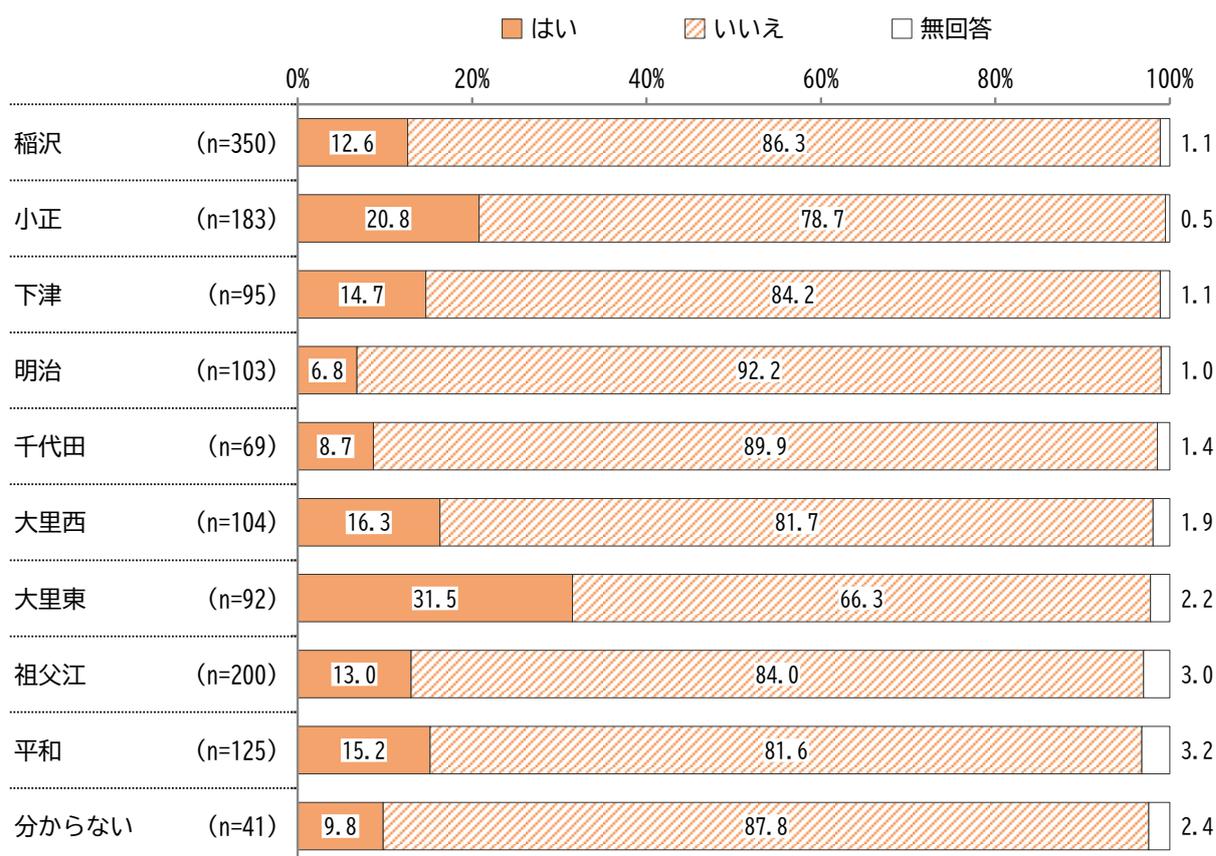
問 13 「いなざわ電子図書館」を知っていますか。(○は1つだけ)



【性・年齢別】



【居住地区別】



●約8割の方が電子図書館を「知らない」

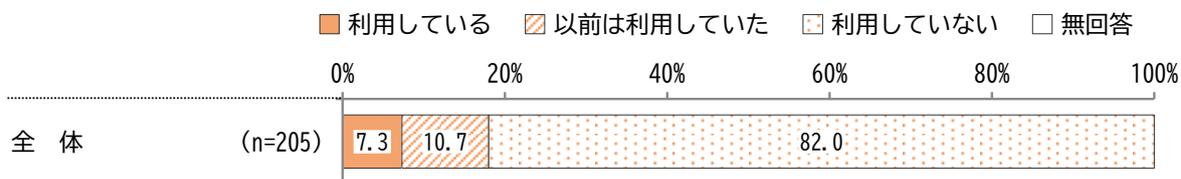
「はい」が14.9%に対し、「いいえ」が83.4%といなざわ電子図書館を知らない方が非常に多いことが分かります。

性・年齢別でみると、30歳～49歳女性の3割近くの方が「はい」と答えています。

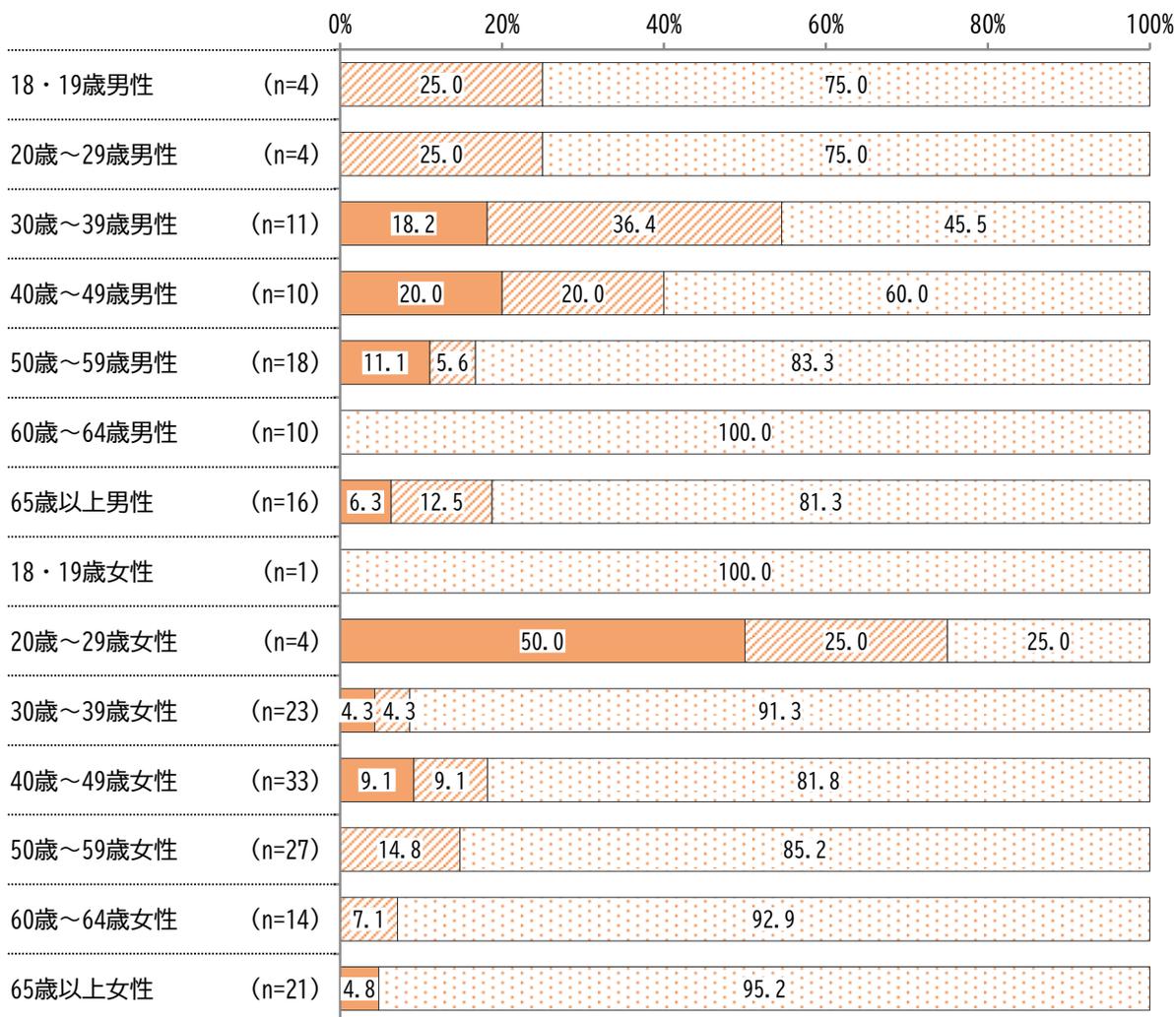
居住地区別でみると、大里東地区で「はい」が31.5%と、他に比べ高くなっています。

問 13 で「1. はい」と答えた方にお尋ねします。

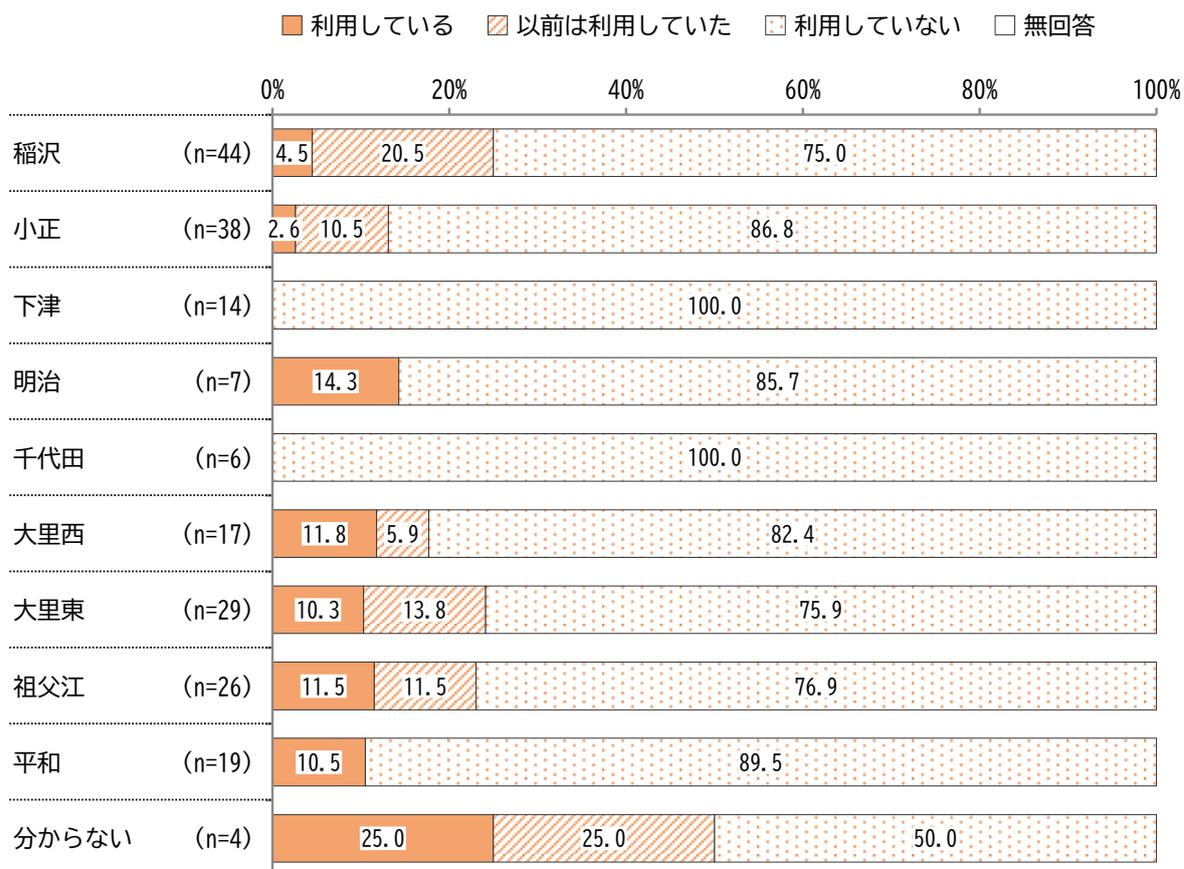
問 13-1 「いなざわ電子図書館」を利用していますか。(○は1つだけ)



【性・年齢別】



【居住地区別】

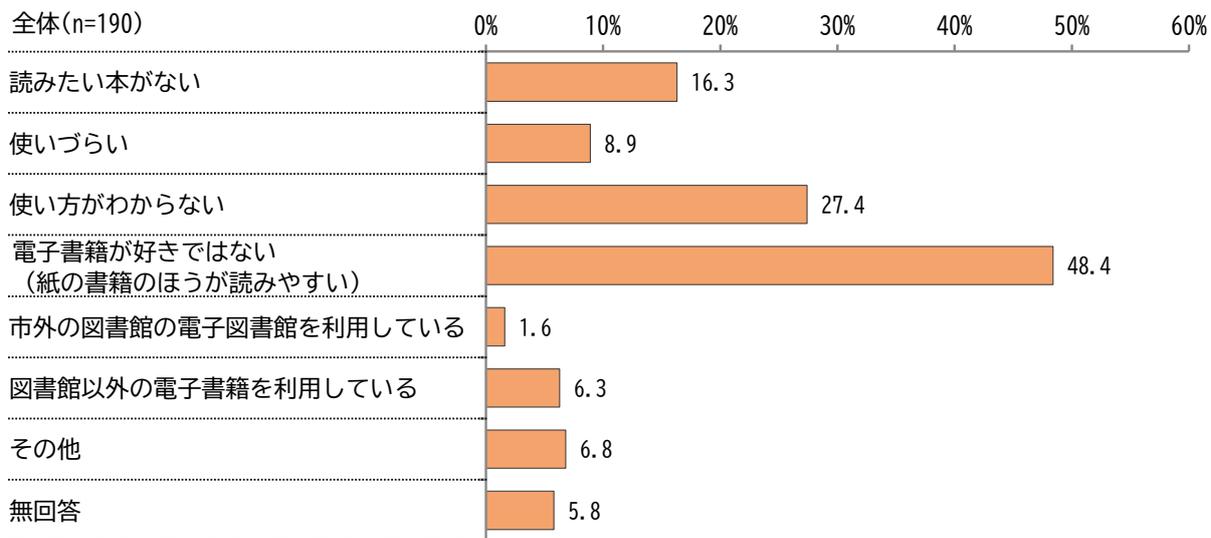


●電子図書館を知っていても「利用していない」方が約9割

「利用していない」(82.0%)と「以前は利用していた」(10.7%)と合わせると 92.7%で、約9割の方が電子図書館を知っているものの利用していないことになります。

問 13-1 で「2.以前は利用していた」「3.利用していない」と答えた方にお尋ねします。

問 13-2 利用しない理由は何ですか。(あてはまるもの全てに○)



【性・年齢別】

単位：%

区分	回答者数 (件)	読みたい本がない	使いづらい	使い方がわからない	電子書籍が好きではない (紙の書籍のほうが読みやすい)	市外の図書館の電子図書館を利用している	図書館以外の電子書籍を利用している	その他	無回答
18・19歳男性	4	-	-	-	50.0	-	50.0	-	-
20歳～29歳男性	4	-	-	50.0	50.0	-	-	-	-
30歳～39歳男性	9	44.4	22.2	22.2	11.1	-	33.3	11.1	-
40歳～49歳男性	8	12.5	37.5	-	62.5	-	-	12.5	-
50歳～59歳男性	16	12.5	12.5	43.8	18.8	6.3	12.5	6.3	12.5
60歳～64歳男性	10	10.0	10.0	30.0	50.0	-	10.0	-	10.0
65歳以上男性	15	13.3	-	40.0	60.0	-	-	13.3	-
18・19歳女性	1	-	-	-	100.0	-	-	-	-
20歳～29歳女性	2	50.0	50.0	-	50.0	-	-	50.0	-
30歳～39歳女性	22	13.6	9.1	22.7	50.0	-	9.1	9.1	4.5
40歳～49歳女性	30	16.7	6.7	20.0	60.0	3.3	3.3	3.3	6.7
50歳～59歳女性	27	14.8	7.4	18.5	55.6	-	3.7	11.1	3.7
60歳～64歳女性	14	21.4	-	28.6	50.0	-	-	-	14.3
65歳以上女性	20	20.0	10.0	55.0	30.0	-	-	-	10.0

【居住地区別】

単位：％

区分	回答者数（件）	読みたい本がない	使いづらい	使い方がわからない	電子書籍が好きではない（紙の書籍のほうが読みやすい）	市外の図書館の電子図書館を利用している	図書館以外の電子書籍を利用している	その他	無回答
稲沢	42	23.8	9.5	16.7	50.0	-	4.8	7.1	2.4
小正	37	13.5	10.8	27.0	40.5	-	5.4	5.4	10.8
下津	14	14.3	7.1	21.4	57.1	7.1	-	7.1	-
明治	6	-	33.3	33.3	66.7	-	-	16.7	-
千代田	6	-	-	33.3	66.7	33.3	-	-	-
大里西	15	20.0	-	40.0	40.0	-	-	6.7	-
大里東	26	7.7	23.1	42.3	50.0	-	11.5	11.5	3.8
祖父江	23	21.7	-	17.4	65.2	-	8.7	4.3	8.7
平和	17	11.8	-	41.2	17.6	-	17.6	-	17.6
分からない	3	33.3	-	-	66.7	-	-	33.3	-

●約5割の方が「紙の書籍のほうが読みやすい」から電子図書館を利用しない

「電子書籍が好きではない（紙の書籍のほうが読みやすい）」が 48.4％で最も高く、次いで「使い方がわからない」が 27.4％、「読みたい本がない」が 16.3％となっています。

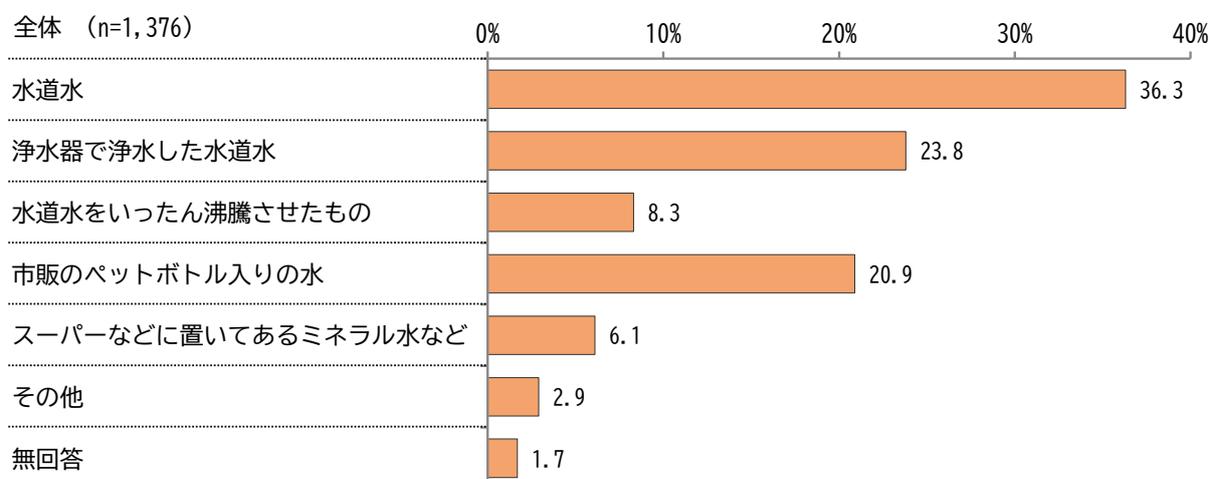
性・年齢別でみると、65歳以上女性の 55.0％が「使い方がわからない」からと答えています。

今回の調査で「本をあまり読まない」方が多いこと、電子図書館については認知度が低いことなどが分かりました。

図書館や本の魅力をより多くの方に伝えられるよう、各種広報・情報発信に努めていきます。

10 安全でおいしい水のPR効果について

問 14 飲料水として、最も利用する水は何ですか。(○は1つだけ)



【年齢別】

単位：%

区分	回答者数 (件)	水道水	浄水器で 浄水した 水道水	沸騰させ たもの	市販のペ ットボト ル	スーパ ーなど に置いて あるミ ネラル 水など	その他	無回 答
18・19歳	16	31.3	25.0	-	25.0	18.8	-	-
20歳～29歳	92	28.3	27.2	4.3	21.7	14.1	3.3	1.1
30歳～39歳	162	24.1	34.0	6.2	24.7	5.6	5.6	-
40歳～49歳	227	34.4	30.4	9.7	20.3	3.5	1.8	-
50歳～59歳	285	26.0	25.6	8.8	27.7	7.0	3.5	1.4
60歳～64歳	143	48.3	20.3	4.9	14.0	5.6	4.2	2.8
65歳以上	439	46.2	16.2	10.5	17.3	4.8	1.6	3.4

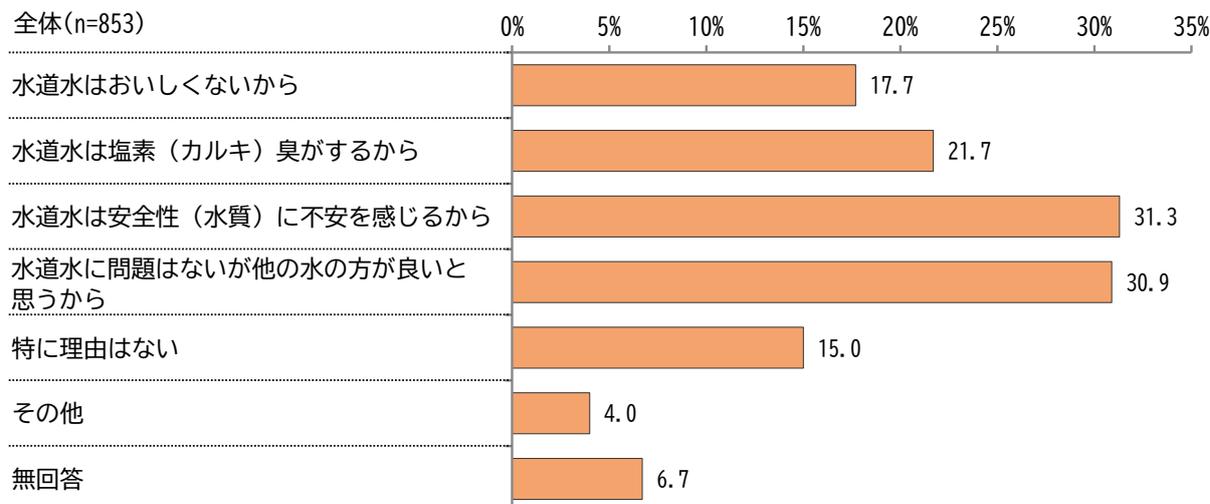
● 「水道水」を飲料水として利用する方が4割近く

「水道水」が36.3%で最も高く、次いで「浄水器で浄水した水道水」が23.8%、「市販のペットボトル入りの水」が20.9%となっています。

年齢別でみると、30歳～39歳では「浄水器で浄水した水道水」(34.0%)が、50歳～59歳では「市販のペットボトル入りの水」(27.7%)が、「水道水」よりも若干高くなっています。

問 14 で「1. 水道水」以外を選択した方にお尋ねします。

問 14-1 その理由は何ですか。(あてはまるもの全てに○)



【年齢別】

単位：%

区分	回答者数（件）	水道水はおいしくないから	水道水は塩素（カルキ）臭がするから	水道水は安全性（水質）に不安を感じるから	水道水に問題はないが他の水の方が良いと思うから	特に理由はない	その他	無回答
18・19歳	11	27.3	9.1	9.1	27.3	27.3	-	9.1
20歳～29歳	65	23.1	18.5	35.4	29.2	15.4	1.5	4.6
30歳～39歳	123	22.8	33.3	35.0	28.5	13.8	4.1	3.3
40歳～49歳	149	14.8	23.5	31.5	33.6	9.4	4.7	5.4
50歳～59歳	207	19.8	20.8	32.4	30.0	15.9	7.2	4.3
60歳～64歳	70	17.1	18.6	35.7	31.4	11.4	4.3	8.6
65歳以上	221	13.1	16.3	27.1	31.7	19.5	1.4	11.8

● 「水道水は安全性（水質）に不安を感じるから」水道水を利用しない方が約3割

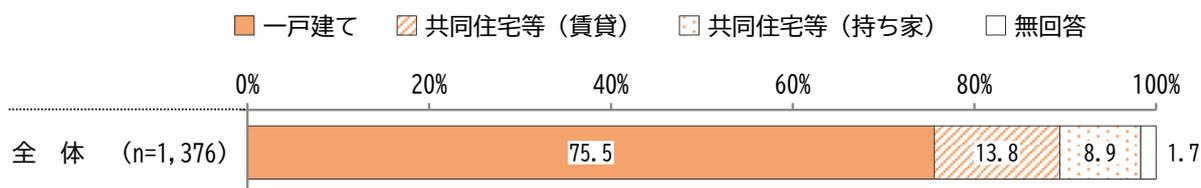
「水道水は安全性（水質）に不安を感じるから」が31.3%で最も高くなっています。

年齢別でみると、20歳～29歳と50歳～64歳で「水道水は安全性（水質）に不安を感じるから」が最も高くなっていますが、18・19歳では「水道水はおいしくないから」と答えた方が多くなっています。

第2期水道ビジョンで示されている目標の実現方策である「水質管理体制の充実と対策の実施」および「情報発信」における達成度の検証と、水道水のおいしさと安全性のPR効果の検証に活用していきます。

11 住宅用火災警報器について

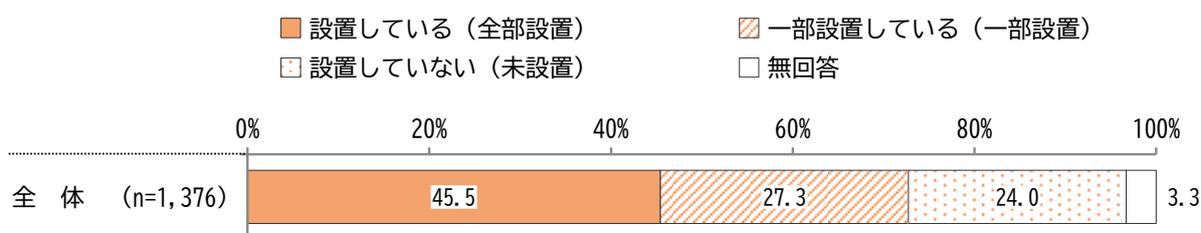
問 15 お住まいの住宅は、次のうちどれに該当しますか。（○は1つだけ）



●お住まいの住宅は「一戸建て」が7割半ば

「一戸建て」が75.5%と最も高く、次いで「共同住宅等（賃貸）」が13.8%となっています。

問 16 条例により住宅火災警報器の設置が義務付けられている住宅の部分全てに住宅用火災警報器が設置されていますか。（○は1つだけ）

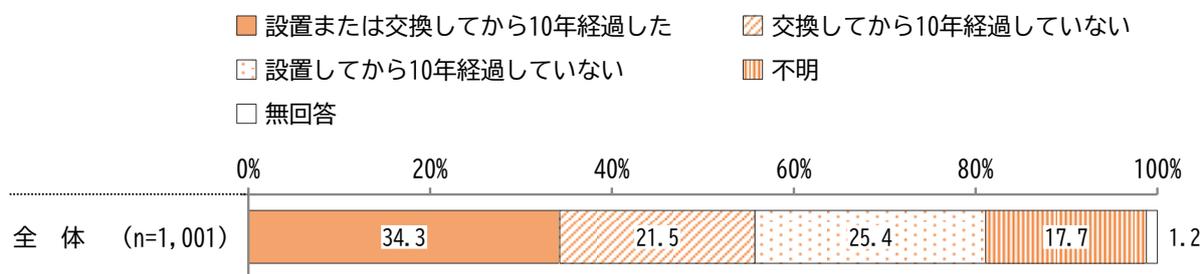


●2割半ばの方が住宅用火災警報器を「設置していない」

「設置している（全部設置）」が45.5%の一方で、「設置していない（未設置）」が24.0%となっています。

問 16 で「1. 設置している（全部設置）」「2. 一部設置している（一部設置）」と答えた方にお尋ねします。

問 16-1 設置されている住宅用火災警報器は設置・交換してから 10 年を経過していますか。（○は 1 つだけ）

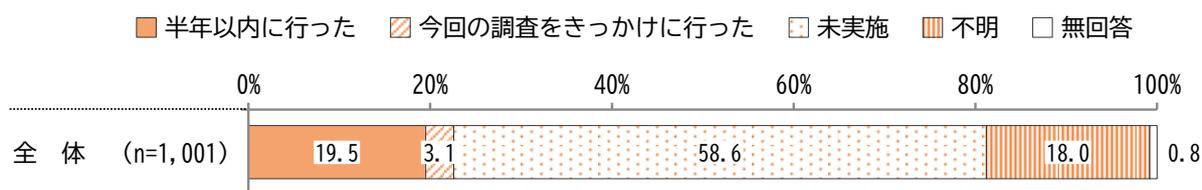


●住宅用火災警報器を「設置または交換してから 10 年経過した」方が 3 割半ば

「設置または交換してから 10 年経過した」が 34.3%の一方、「交換してから 10 年経過していない」(21.5%)と「設置してから 10 年経過していない」(25.4%)を合わせた“10 年経過していない”方も 5 割近くとなっています。

問 16 で「1. 設置している（全部設置）」「2. 一部設置している（一部設置）」と答えた方にお尋ねします。

問 16-2 半年以内に住宅用火災警報器の作動確認を行いましたか。（○は 1 つだけ）

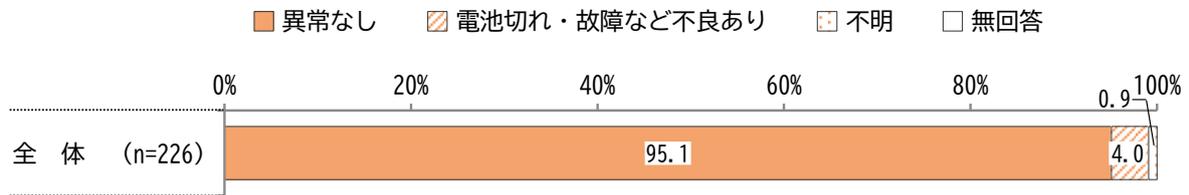


●6 割近くの方が作動確認をしていない

「未実施」が 58.6%で、住宅用火災警報器を設置している方の 6 割近くが作動確認をしていないと回答しています。

問 16-2 で「1. 半年以内に行った」「2. 今回の調査をきっかけに行った」と答えた方にお尋ねします。

問 16-3 作動確認の結果はどうでしたか。(○は1つだけ)



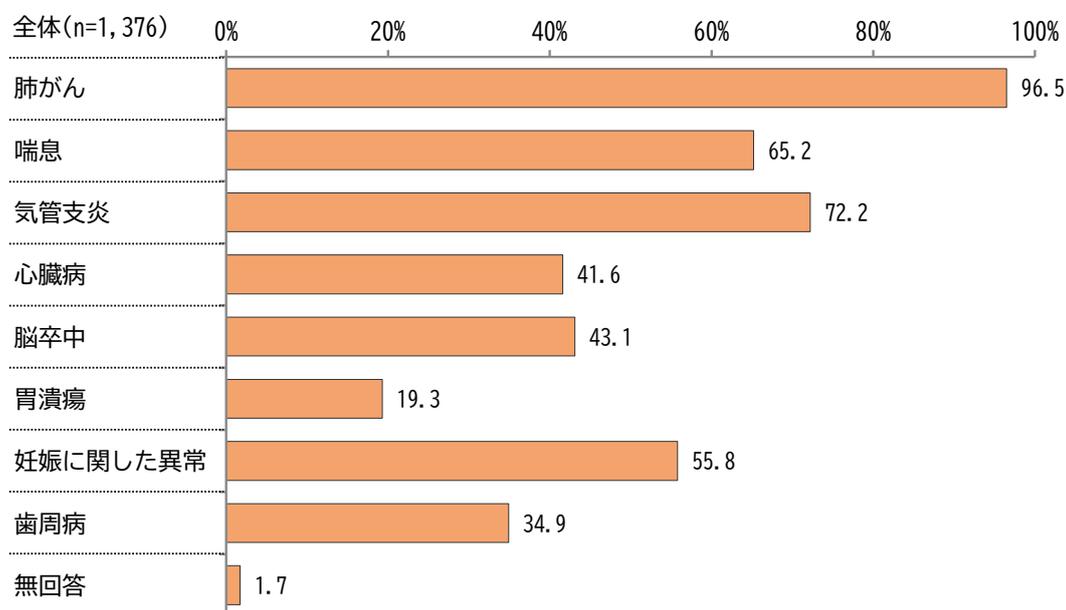
●住宅用火災警報器の作動確認をした結果9割半ばが「異常なし」

「異常なし」が95.1%の一方で、「電池切れ・故障など不良あり」が4.0%となっています。

今回の結果を踏まえ、「設置から10年以上経過した住宅用火災警報器の更新」「定期的な点検の実施」についての一層の周知を進めていきます。

12 いきいきいなざわ・健康21計画(第2次)計画における現状

問17 次の病気のうち、たばこが影響すると知っているものはありますか。
(あてはまるもの全てに○)



【年齢別】

単位：%

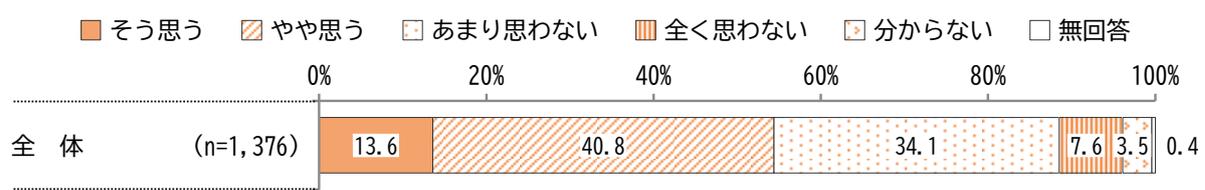
区分	回答者数 (件)	肺がん	喘息	気管支炎	心臓病	脳卒中	胃潰瘍	関妊 した に 異常	歯周病	無回答
18・19歳	16	87.5	81.3	75.0	37.5	18.8	18.8	68.8	62.5	-
20歳～29歳	92	100.0	71.7	79.3	34.8	37.0	18.5	77.2	54.3	-
30歳～39歳	162	99.4	72.2	73.5	43.2	51.2	20.4	71.0	46.9	0.6
40歳～49歳	227	97.8	74.4	80.2	39.2	50.2	22.5	63.9	44.9	-
50歳～59歳	285	96.5	62.8	69.5	45.6	51.6	18.9	58.9	34.7	1.1
60歳～64歳	143	95.8	60.8	69.9	44.8	41.3	21.0	52.4	36.4	4.2
65歳以上	439	94.5	58.5	68.6	40.3	33.9	17.1	40.8	20.0	3.2

●たばこが影響すると知っている病気として「肺がん」が9割半ばと最も多い

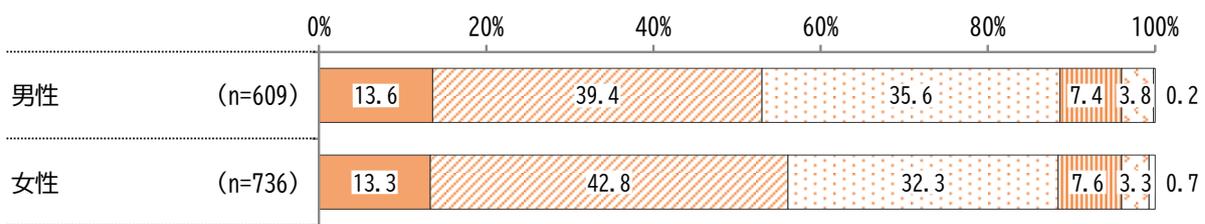
「肺がん」(96.5%)と回答した方が最も多く、次いで「気管支炎」(72.2%)、「喘息」(65.2%)となっています。

年齢別でみると、全ての年代で「肺がん」と回答した方が最も多くなっています。また、20歳～39歳の約7割が、たばこが「妊娠に関する異常」に影響があると認識しています。

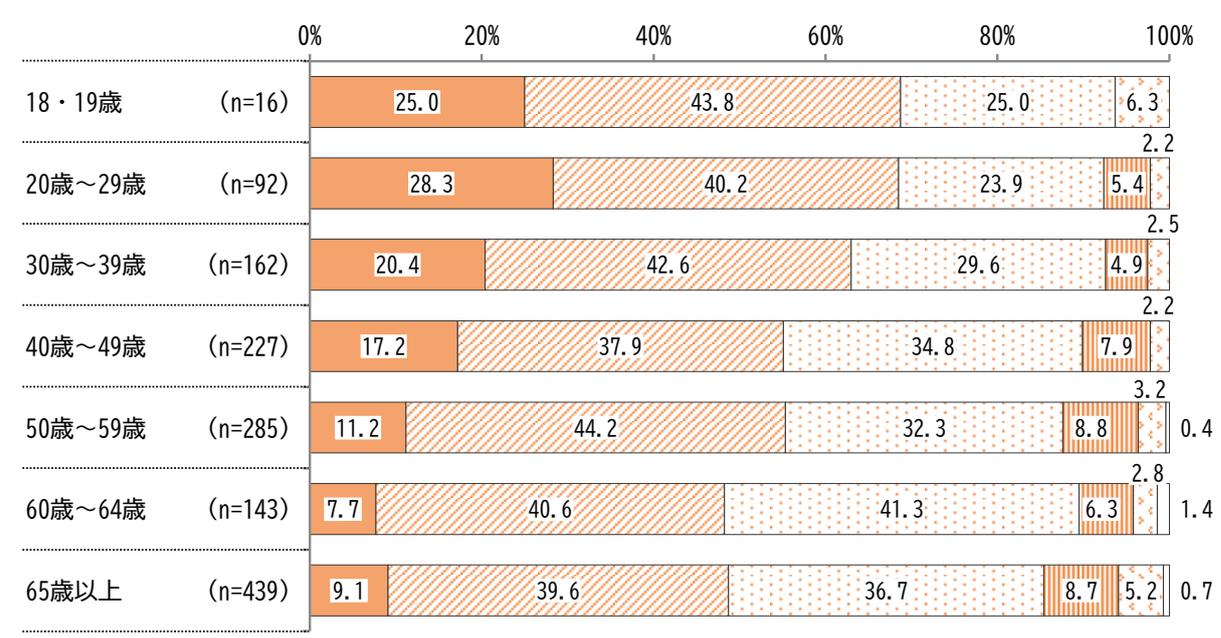
問 18 あなたは心身ともに健康であると思いますか。(○は1つだけ)



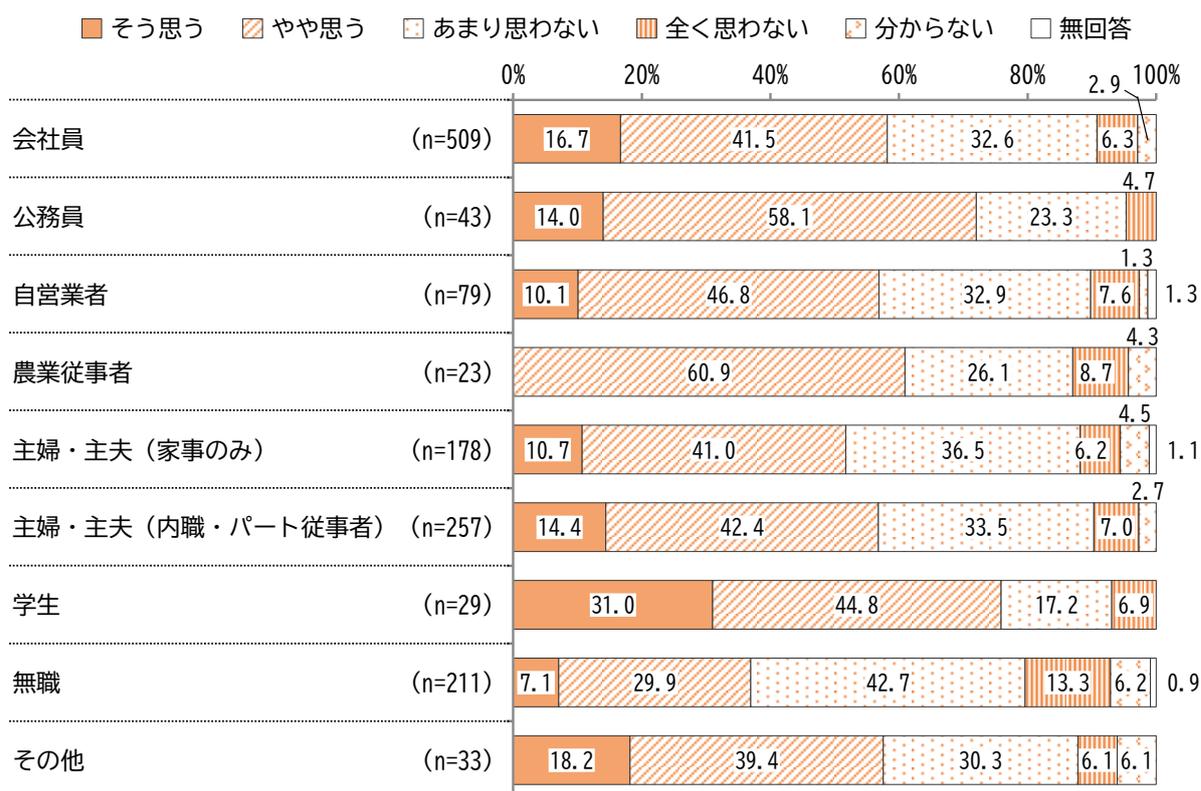
【性別】



【年齢別】



【職業別】



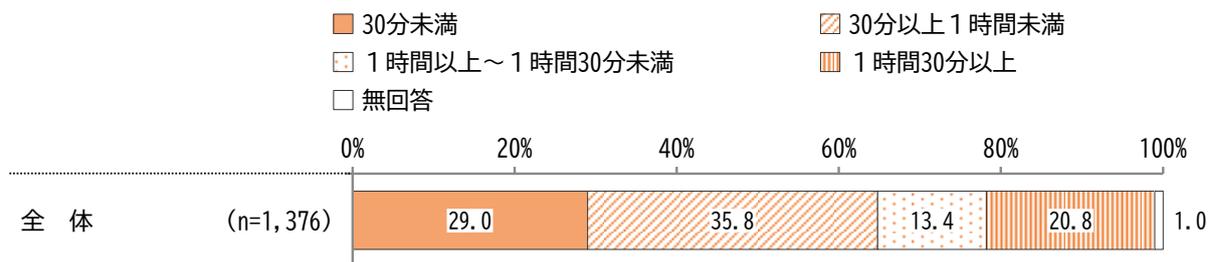
●心身ともに健康であると思う方は5割半ば

「そう思う」「やや思う」を合わせた割合は 54.4%で5割半ばの方が、心身ともに健康であると思うと答えています。

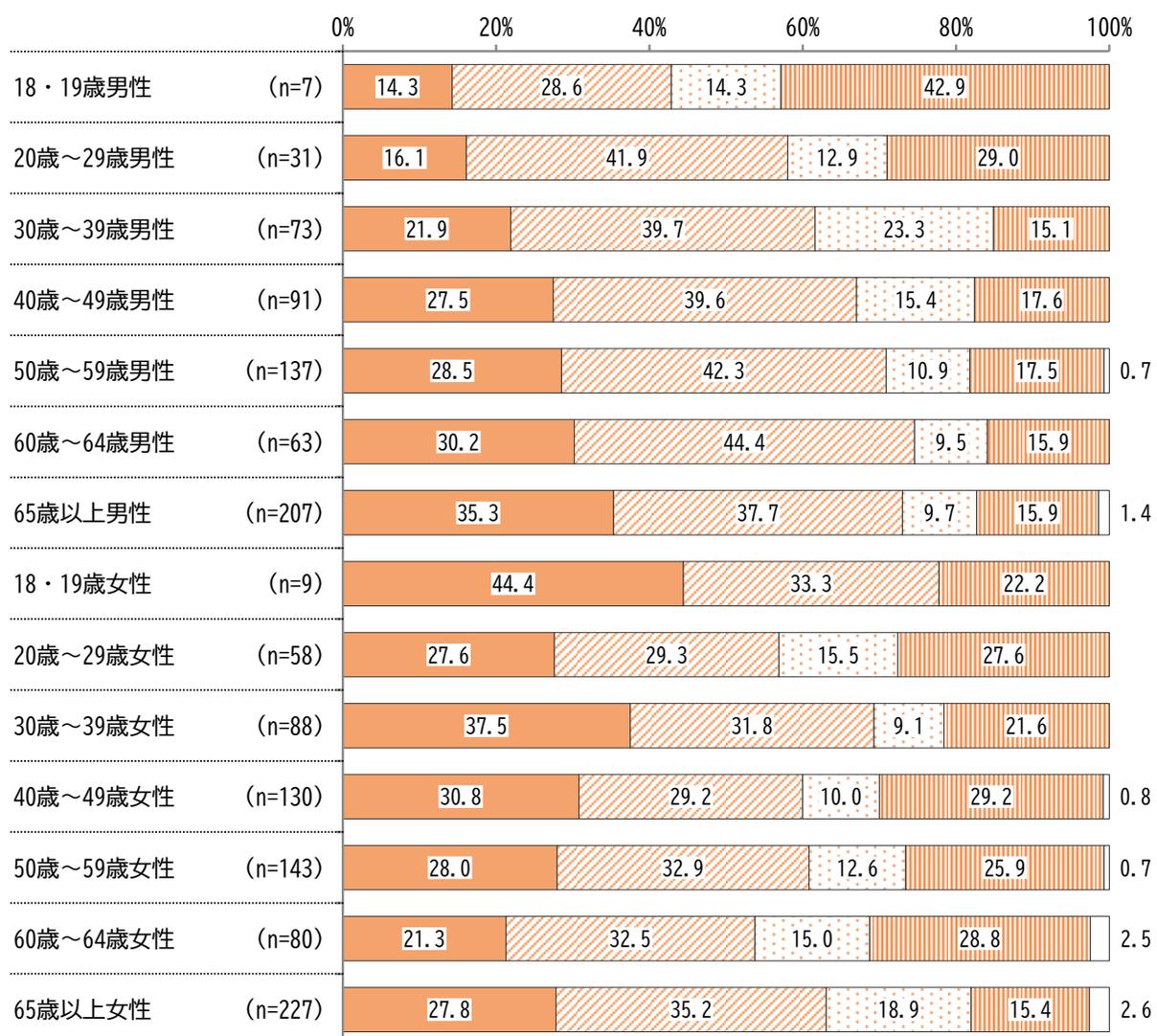
年齢別で見ると、18・19 歳と 20 歳～29 歳で、「そう思う」「やや思う」を合わせた割合が約7割と高くなっており、年齢が上がるにつれ低くなる傾向が見られます。

職業別で見ると、学生の 75.8%が「そう思う」または「やや思う」と回答し、7割半ばが心身ともに健康であると“思っている”ことが分かります。一方、無職の方は 37.0%と低くなっています。

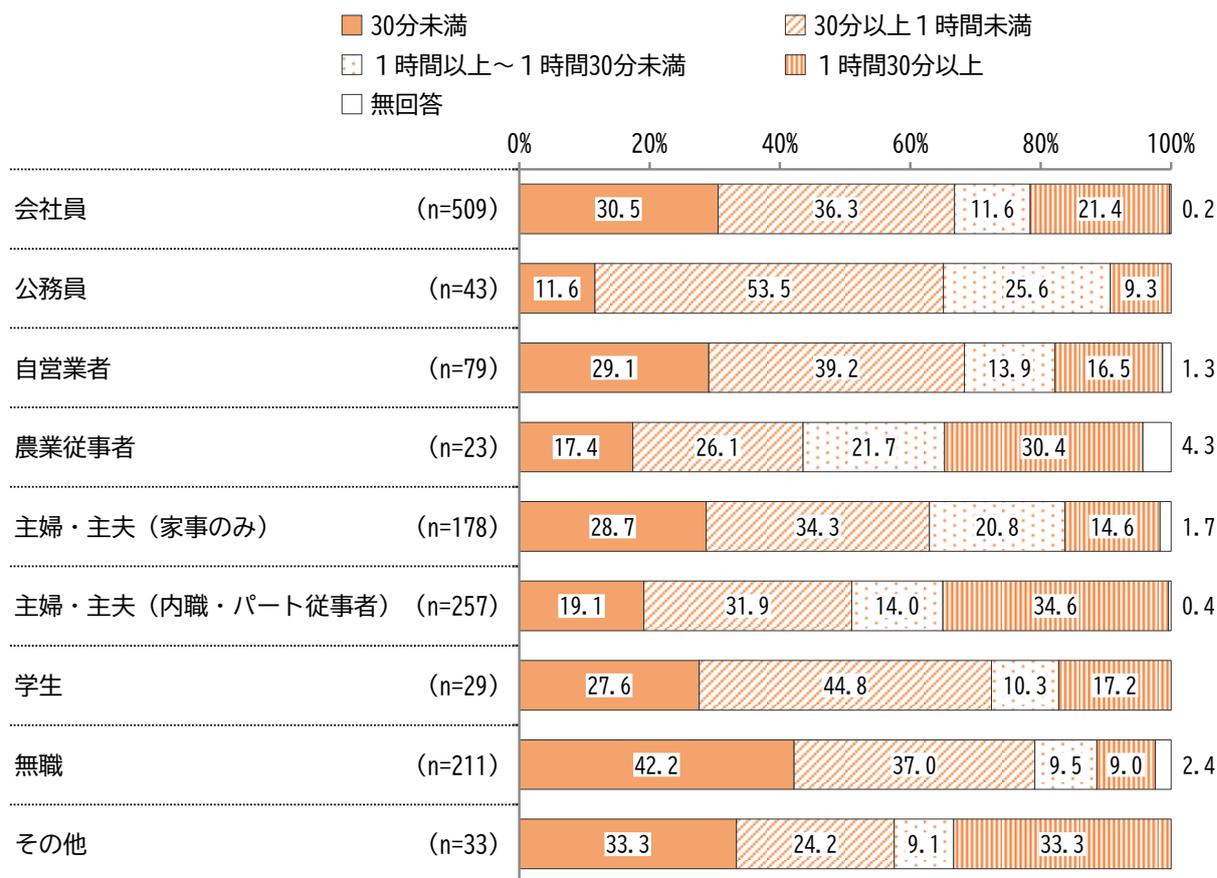
問 19 日常生活（仕事や家事などを含む）において、1日にどの程度歩いていますか。
（○は1つだけ）



【性・年齢別】



【職業別】

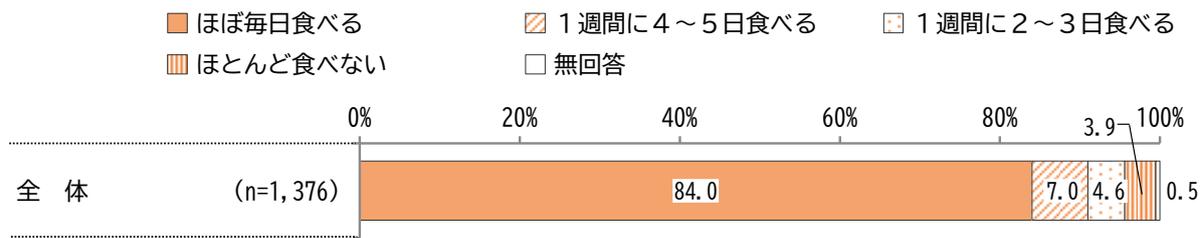


● 1日に「30分以上1時間半未満」歩いている人が3割半ば

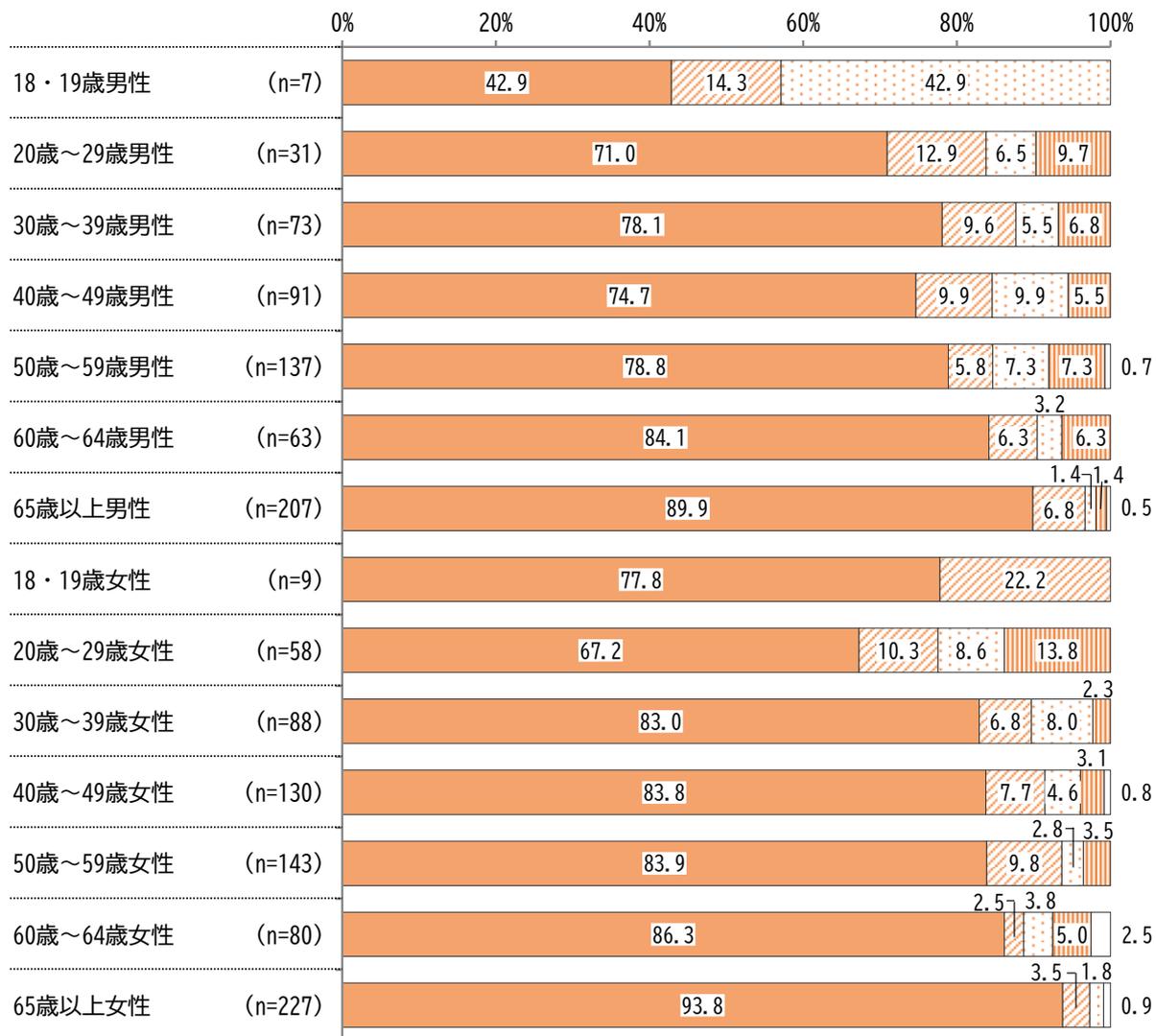
「30分以上1時間未満」(35.8%)が最も多く、次いで「30分未満」(29.0%)、「1時間30分以上」(20.8%)となっています。

性・年齢別で見ると、男性は年齢が上がるにつれて「30分未満」と答えた方の割合が高くなっています。職業別で見ると、無職の42.2%が「30分未満」と回答しており、他に比べて高くなっています。

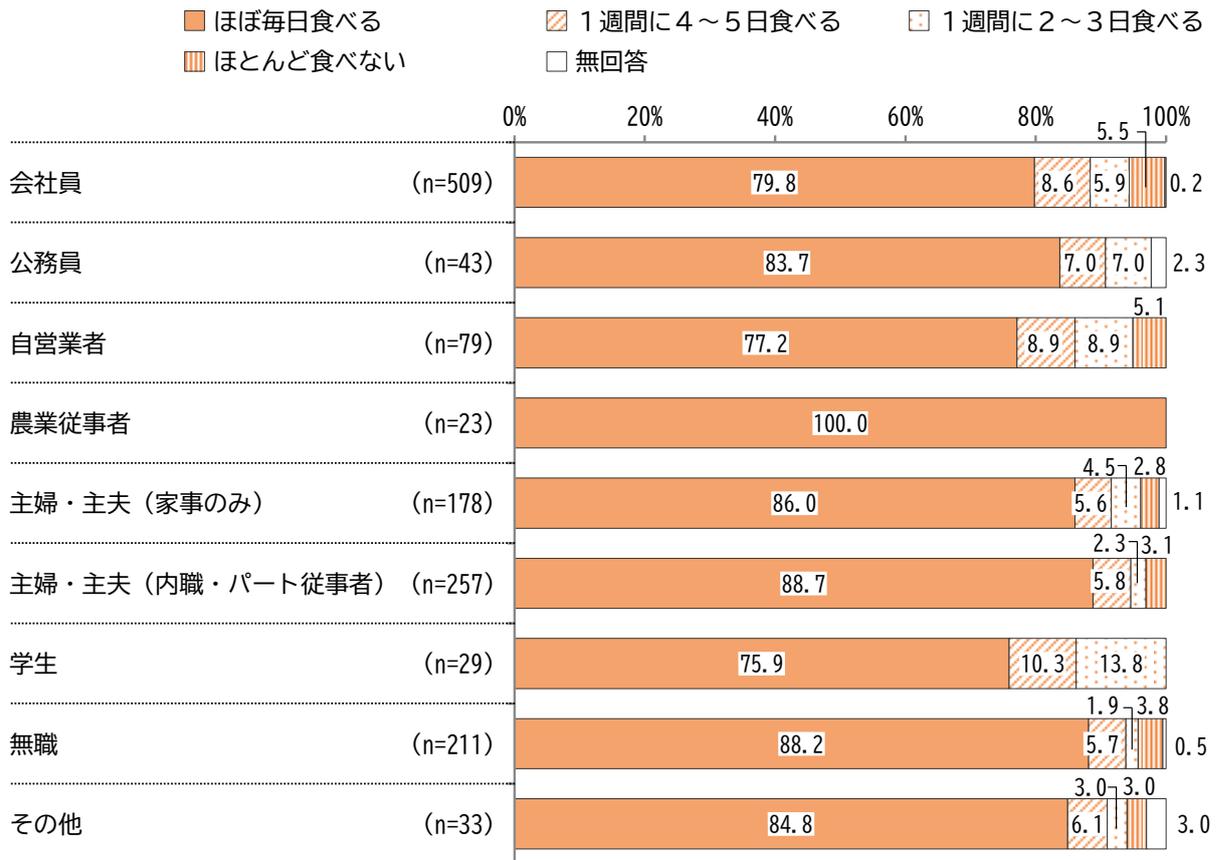
問 20 1日3回の食事をどの程度摂れていますか (○は1つだけ)



【性・年齢別】



【職業別】



● 1日3回の食事を「ほぼ毎日食べる」方は8割半ば

「ほぼ毎日食べる」が84.0%で、令和4年度調査と同様、最も高くなっています。

性・年齢別でみると、男女とも65歳以上の方の約9割が「ほぼ毎日食べる」と回答しており、他に比べ多くなっています。一方、20歳～29歳では「ほぼ毎日食べる」と答えた割合が他に比べ低くなっています。

「いきいきいなざわ・健康21（第2次）計画」の令和6年度の最終評価に活用していきます。

III. 第26回市政世論調査 調査結果活用事例

●デジタル化推進に向けた市民ニーズの把握【デジタル推進課】

<p>設問</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. パソコンやスマートフォン、タブレットなど、インターネットに接続する電子機器を持っていますか。 2. 現在、稲沢市ではデジタル化に向けた取り組みを行っていますが、デジタル化が進んでいると感じますか。 3. スマートフォンの一般的な操作方法をはじめ、マイナンバーカードを活用した各種オンライン申請、マイナポータルの活用方法などの説明が聞ける「スマホ教室」に参加したいと思いますか。 4. 3で「2.参加したくない」「3.分からない」と答えた方にお聞きします。その理由は何ですか。
<p>調査結果</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. インターネットに接続できる電子機器を所持している割合は86.2%で65歳以上の方でも66.4%となっていました。 2. 市役所のデジタル化に向けた取り組みでデジタル化が進んでいると感じるかの問いに対して「とても感じている」「やや感じている」の合計27.2%に対して「あまり感じていない」「まったく感じていない」の合計46.5%となり、デジタル化が進んでいると感じていない市民が大半を占めていました。 3. スマホ教室に、「参加したい」と回答した割合は14.2%ではあるが、60～64歳で18%、65歳以上では24.1%と年齢が上がるにつれ参加意欲が見られました。 4. スマホ教室に「参加したくない」、「分からない」と回答した方の50.4%はスマホ教室について「必要性を感じていない」、21%の方は「身近な人に聞くことができる」と回答していますが、27.4%の方は「行くのが面倒である」と回答しました。
<p>活用した事例の進捗状況</p>	<p>上記の結果を踏まえ、令和4年11月からスマホ教室に参加しやすくなるよう会場を公民館にしました。スマホ教室の参加者は70代が55%と大半を占めていました。</p> <p>市役所のデジタル化に向けた取り組みとして、窓口でのキャッシュレス決済の拡充、市民課やおくやみコーナーなどの窓口でのスマート窓口システムの導入、オンラインによる申請の構築などを実施し、住民サービスの向上に取り組みました。</p>

●今後の市民活動の支援のあり方について【地域協働課】

<p>設問</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 市民活動団体の活動やボランティア団体の活動に関心がありますか。 2. あなたが関心のある市民活動・ボランティア活動の分野をお答えください。 3. あなたが市民活動・ボランティア活動に参加する際に重視する点をお答えください。
<p>調査結果</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「関心がある」と「どちらかといえば関心がある」を合わせた”関心がある”の割合が35.2%、「どちらかといえば関心がない」と「関心がない」を合わせた”関心がない”の割合が63.8%となりました。 2. 「子ども・青少年育成」の割合が43.9%と最も多く、次いで「高齢者・障がい者福祉」の割合が38.5%、「防犯・交通安全、防災・災害救援」、「芸術・文化・スポーツ」の割合が31.3%となりました。 3. 「目的や活動内容に共感できる」の割合が68.5%と最も高く、次いで「自分の都合の良い時間に参加できる」の割合が61.0%となりました。
<p>活用した事例の進捗状況</p>	<p>調査結果を参考に、市民活動団体の登録や運営に関する相談に対応するなど市民活動のより一層の活性化を図ることで、登録団体数が増加し、活動が活発になっています。</p> <p>他にも、市内には9つの地区まちづくり推進協議会があり、各事業のボランティア活動員が地域の実情に応じたさまざまな活動を行っており、誰もが参加しやすい地域づくりを推進しています。</p>

●稲沢市地域福祉計画・地域福祉活動計画における目標指標について【福祉課】

<p>設問</p>	<p>1. 地域の活動やボランティア活動に参加したことがありますか。</p> <p>2. 台風などの災害時に避難する際、家族、近所の人など、手助けをお願いできる人がいますか。</p> <p>3. 稲沢市の福祉事業・活動全般について、どの程度満足していますか。</p>
<p>調査結果</p>	<p>1. 「参加したことがない」が 66.6%と最も高く、次いで「以前、参加したことがある」が 24.0%、「日ごろから参加している」が 8.7%となりました。</p> <p>2. 「いる」が 65.9%、「いない」が 33.7%となりました。</p> <p>3. 「分からない」が 50.7%と最も高く、次いで「ある程度満足している」が 24.2%、「あまり満足していない」が 17.4%となりました。</p>
<p>活用した事例の進捗状況</p>	<p>調査時での第4次稲沢市地域福祉計画・地域福祉活動計画における目標指標の現状を把握することができました。第5次稲沢市地域福祉計画・地域福祉活動計画（令和6年度策定予定）の内容や目標数値などの検討に活用していきます。</p>

●学校の小規模化に伴う将来の小学校配置について【庶務課】

<p>設問</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 稲沢市では、小学校の学級数の標準規模を 12 学級（各学年 2 学級以上）から 24 学級、中学校の学級数の標準規模を 6 学級（各学年 2 学級以上）から 24 学級と定めています。本市の小中学校の標準規模について、あなたの考えに近いものを選んでください。 2. 稲沢市では、令和 4 年度現在、中学校の学級数は全て標準規模となっていますが、小学校 23 校のうち 13 校は標準規模を下回っており、全ての学年が 1 学級という小学校も 10 校あります。また、少子化の影響により、1 学級の児童数が 15 人を下回る小学校も増えることが予想されています。こうした状況の中、本市の小学校の配置について、あなたの考えに近いものを選んでください。 3. 2 で「小規模校が増えても、現状の学校配置のままでよい」と答えられた方にお聞きします。選択した理由として、あなたの考えに近いものを選んでください。 4. 2 で「現状の学校配置が望ましいが、学校再編は仕方がない」「小規模な小学校は、学校再編を進めるべきだ」と答えられた方にお聞きします。選択した理由として、あなたの考えに近いものを選んでください。 5. 2 で「現状の学校配置が望ましいが、学校再編は仕方がない」「小規模な小学校は、学校再編を進めるべきだ」と答えられた方にお聞きします。一般的に、小学校では、どの程度小規模になったら、学校再編が必要であると考えますか。あなたの考えに近いものを選んでください。
<p>調査結果</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「分からない」が 42.6%と最も高く、次いで「どちらかというに適正」が 28.9%となりました。 2. 「現状の学校配置が望ましいが、学校再編は仕方がない」が 33.2%と最も高く、次いで「分からない」が 26.4%となりました。 3. 「通学の時間が長くなるから」が 37.5%と最も高く、次いで「学校は地域の活動拠点であるから」が 21.4%となりました。 4. 「多くの友達や教員の多様な意見や考えに触れることが期待できるから」が 32.4%と最も高く、次いで「集団活動や切磋琢磨することによる教育効果が期待できるから」が 20.7%となりました。 5. 「全学年 1 学級の状態が続くとき」が 38.3%と最も高く、次いで「複式学級が発生するとき」が 18.5%となりました。
<p>活用した事例の進捗状況</p>	<p>教育委員会が定める標準規模に満たない小学校が増加する中で、将来的な学校配置に対する市民の考え方を確認することができ、学校再編・統合も含めた「稲沢市学校施設整備基本計画」案の策定委員会資料として委員に配布するなど、業務に活かすことができました。</p>

●創業意識について【商工観光課】

<p>設問</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 稲沢市では、令和4年6月に創業経営支援センター「スタートアップいなざわ」を市役所に設置し、創業者、事業者の皆様の相談に対応しています。ご自身で事業を営む創業について、どう考えていますか。 2. 1で「創業する予定で、事業内容も決めている。既に事業を営んでいる（営んでいた）」または「内容は未定だが、いつかは創業して自分で事業を営んでみたい」と答えた方にお聞きします。あったら良い（良かった）と考える支援策はありますか。
<p>調査結果</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 創業可能性などを確認し、全年代の平均で9.9%が創業を検討しており、相談の潜在需要が8,500人程度ある可能性が確認できました。また、特に40代までの世代では15.9%と創業への関心が高いことが判明しました。 2. 創業している方、創業イメージが固まっている方に必要な支援内容を確認し、「いつでも相談できる窓口」の希望が一番高く60.0%に上がることが確認できました。また、次に希望が多かった「開業に必要な設備投資への補助」も46.7%と高く、他の支援策と併せ一定数の要求水準であることが判明しました。
<p>活用した事例の進捗状況</p>	<p>調査時点では稲沢市創業経営支援センター「スタートアップいなざわ」を開設した直後でしたが、開設からおおよそ2年で400件を超える相談があり、ニーズのある支援策について積極的に案内するなど、調査で得られた結果を事業に活用しています。</p>

●『合葬墓・樹木葬』のニーズについて【環境施設課】

<p>設問</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現在、お墓または納骨堂をお持ちですか。または取得予定ですか。 2. 1で、「1. 先祖のお墓や納骨堂を受け継いでいる」、「2. 自分で取得して持っている」と答えた方にお聞きします。将来、墓じまいをお考えになったことはありますか 3. 「合葬墓」や「樹木葬」と呼ばれているお墓をご存じですか。 4. 市営墓地である祖父江霊園内に合葬墓や樹木葬を設置した場合利用したいですか。
<p>調査結果</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「先祖のお墓や納骨堂を受け継いでいる」32.5%と最も高く、次いで「持っていないし、引き継ぐ予定もない」が26.4%でした。 2. 「ない」が39.7%と最も高く、「ある」が36.0%、「分からない」も23.7%となりました。 3. 「知っている」が51.2%と最も高く、「知らない」が28.7%となりました。 4. 「分からない」が39.1%と最も高く、「利用しない」が26.9%、「利用したい」は14.4%となりました。
<p>活用した事例の進捗状況</p>	<p>祖父江霊園は昭和56年に開園してから40年以上経過しました。 この結果を踏まえて墓石を前提とした墓所の貸し付けに加え、樹木葬や合葬墓の設置を、隣接する祖父江斎場の建設時に検討していきます。</p>

●荻須記念美術館への来館状況について【美術館】

設問	<p>1. これまでに、学校の授業等ではなく、プライベートで荻須記念美術館を訪れ、荻須高德画伯の絵画を鑑賞したことがありますか。</p> <p>2. 1で「ない」と答えた方にお聞きします。その理由として、最も近いものは何ですか。</p>
調査結果	<p>1. 「ない」の割合が 53.3%と最も高く、学校の授業など以外で、美術館へ来館したことがない方が半数を超える結果となりました。 年齢別で見ると、他に比べ、60～64 歳以上で「ある」の割合が高くなっています。</p> <p>2. 「絵画に興味がないから」の割合が 37.3%と最も高く、次いで「絵画を観てもよく分からないから」の割合が 23.0%、「自宅から遠く不便だから」の割合が 10.5%となっています。 年齢別で見ると、他に比べ、30 歳～39 歳で「美術館があることを知らなかったから」の割合が高くなっています。 居住地区別で見ると、他に比べ、千代田で「絵画に興味がないから」の割合が、祖父江で「自宅から遠く不便だから」の割合が高くなっています。</p>
活用した事例の進捗状況	<p>これまで「美術館の利用者は年配の方が多い」との意見をいただくことがありましたが、今回の調査結果でそのことが裏付けされました。</p> <p>そのため、若い世代を中心に荻須作品や美術館の魅力を伝えられるよう、引き続き展示解説（ギャラリートーク）を実施するとともに、各種広報、情報発信に努めることとし、その手法として SNS（X（旧 Twitter）、Instagram）を活用していきます。令和 6 年度の特別展の PR においては、初の FM ラジオ CM なども行いました。</p> <p>また、美術に関心を持っていただき、関心をお持ちの方には理解を深めていただけるように、美術講座（ワークショップ）の回数を増やす事にも努めます。</p>

●安全でおいしい水の供給について【水道業務課】

<p>設問</p>	<p>1. 飲料水として、最も利用する水は何ですか。</p> <p>2. 「水道水」以外を利用している理由は何ですか。</p>
<p>調査結果</p>	<p>1. 「水道水」が37.8%（前回調査比2.0%減）と最も高く、次いで「市販のペットボトル入りの水」が22.3%（同5.1%増）、「浄水器で浄水した水道水」が20.9%（同1.8%増）となっています。</p> <p>年齢別で見ると、他に比べ、65歳以上で「水道水」の割合が高くなっています。また、18・19歳、20歳～29歳で「市販のペットボトル入りの水」の割合が高くなっています。</p> <p>2. 「水道水に問題はないが他の水の方が良いと思うから」が28.4%と最も高く、次いで「水道水は安全性(水質)に不安を感じるから」が24.5%、「水道水は塩素（カルキ）臭がするから」が16.6%となっています。</p> <p>年齢別で見ると、他に比べ、40歳～49歳で「水道水に問題はないが他の水の方が良いと思うから」の割合が高くなっています。</p>
<p>活用した事例の進捗状況</p>	<p>第2期水道ビジョンで示されている目標の実現方策である「水質管理体制の充実と対策の実施」および「情報発信」における達成度の検証に活用しています。</p> <p>また、消費生活展などでの市販のペットボトルと水道水との飲み比べなどのイベントやペットボトル「いなぎわの水」の配布などを通じて、水道水のおいしさと安全性をPRすることで、飲料水として水道水を使っていたらよいよう啓発しており、その効果の検証に活用しています。</p>

●住宅用火災警報器の普及率向上及び適切な維持管理について【予防課】

<p>設問</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. お住まいの住宅は、一戸建てと共同住宅等（賃貸・持ち家）どちらですか。 2. お住まいの住宅に住宅用火災警報器は設置していますか。 3. 2で「設置している」と答えた方にお聞きします。住宅用火災警報器の作動確認を半年以内に実施しましたか。 4. 3で、「実施した」と答えた方にお聞きします。作動確認を実施した結果について選んでください。 5. 2で、「設置していない」と答えた方にお聞きします。稲沢市では、火災予防条例で住宅用火災警報器の設置が義務付けられています。住宅用火災警報器を設置する義務があることは知っていましたか。 6. 5「知っていた」「条例は知らなかったが、設置が必要なことは知っていた」と答えた方にお聞きします。設置していない理由は何ですか。
<p>調査結果</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. お住まいの住宅は、「一戸建て」が78.0%、「共同住宅等（賃貸）」が13.0%、「共同住宅等（持ち家）」が8.4%となりました。 2. 「設置している」が62.1%、「設置していない」が25.8%、「共同住宅等で自動火災報知設備が設置してある」が11.4%となりました。 3. 「実施した」が23.6%、「実施してない」が76.2%となりました。 4. 「異常なし」が88.3%と最も高く、次いで「電池切れのため取り替えた」が6.7%となりました。 5. 「知っていた」が19.4%、「条例は知らなかったが、設置が必要なことは知っていた」が30.9%、「知らなかった」が45.8%となりました。 6. 「必要性を感じない」が24.4%と最も高く、次いで「設置作業が難しい」が20.3%、「価格が高い」が19.8%となりました。
<p>活用した事例の進捗状況</p>	<p>調査結果を踏まえ、設置率が低い地域に重点を置き、対象地域内の商業施設で住宅用火災警報器の設置および設置後の維持管理の必要性などを説明する活動を行いました。</p>

●いきいきいなざわ健康 21（第2次）計画評価のため【健康推進課】

<p>設問</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 次の病気のうち、たばこが影響すると知っているものはありますか。 2. あなたは心身ともに健康であると思いますか。 3. 日常生活（仕事や家事などを含む）において、1日にどの程度歩いていますか。 4. 1日3回の食事をどの程度摂れていますか。
<p>調査結果</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「肺がん」と回答した方の割合が 96.4%と最も高く、次いで「気管支炎」が 69.2%、「喘息」が 61.7%。また、性別では、女性では「妊娠に関する異常」と回答した方の割合が男性に比べ高くなっています。 2. 「そう思う」と「やや思う」を合わせた“思う”の割合が 56.2%、「あまり思わない」と「全く思わない」を合わせた“思わない”の割合が 39.3%となっています。性別でみると、大きな差異はみられません。 年齢別でみると、他に比べ、30～39 歳以下の年代では“思う”の割合が、40 歳～49 歳以上の年代で “思わない”の割合が高くなっています。 3. 「30 分以上1時間未満」の割合が 33.9%と最も高く、次いで「30 分未満」の割合が 26.8%、「1時間 30 分以上」の割合が 24.6%となっています。職業別でみると、他に比べ、自営業者、無職では「30 分未満」の割合が、公務員、学生では「30 分以上1時間未満」の割合が高くなっています。 4. 「ほぼ毎日食べる」の割合が 83.1%と最も高くなっています。職業別でみると、「ほぼ毎日食べる」の割合が、農業従事者、主婦・主夫（家事のみ）で9割以上と高くなっており、一方、学生では7割未満と低くなっています。
<p>活用した事例の進捗状況</p>	<p>「いきいきいなざわ・健康 21（第2次）計画」の令和6年度の最終評価に活用の予定です（最終評価を令和5年度から令和6年度に変更）。</p>

第 27 回市政世論調査

市民のこえ

調査結果のまとめ

作成年月 令和 6 年 12 月

作成 稲沢市

編集 稲沢市役所総合政策部シティプロモーション課

稲沢市稲府町 1 (〒492-8269)

TEL 0587-32-1126 (ダイヤルイン)

FAX 0587-23-1489